令和9（2027）年度
日本体育大学大学院　身体総合学術研究科
身体総合学術専攻　博士前期課程
学生募集要項

・体育科学学位プログラム
・体育実践学学位プログラム
・コーチング科学学位プログラム
・コーチング実践学学位プログラム

本研究科入学試験の出願手続きはインターネット出願（以下、Web 出願という。）となります。
出願前には、マイページ登録が必要です。時間には余裕を持って出願を行ってください。
なお、Web 出願時に登録されたメールアドレスには、大学から入学試験に関する重要なお知らせが配信されますので、変更や削除の可能性がなく、日常的に確認できるメールアドレスを準備してください。

◇不測の事態が発生した場合の諸連絡
不測の事態により入学試験要項の記載内容に変更が生じた場合は、本学のホームページにより周知しますので、出願前や受験前は特に注意してください。
その他の入試に関する最新情報についても公表しますので、随時確認してください。

日本体育大学

目　次

Ⅰ．身体総合学術専攻　体育学研究群　博士前期課程について
1．人材養成その他教育研究上の目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
2．学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
3．教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
4．入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

Ⅱ．受験要領
1．募集人員・・8
2．出願資格・・8
3．学位プログラム及びコース・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
4．入学試験日程等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
5．選抜区分及び出願要件・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
6．出願書類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
在留外国人の方・外国の学校出身の方へ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
7．外国籍を有する者の出願書類について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
8．障がい等のある入学志願者の事前相談について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
9．出願手続・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
10．受験票について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
11．選抜要領・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
12．受験上の注意・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
13．合格発表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
14．入学手続・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
15．学　　費・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
16．出願前の個別審査が必要な方へ　≪出願資格認定審査について≫・・・・・・・・・・・・・20

Ⅲ．2027 年度　研究指導担当教員及び研究指導領域・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
【博士前期課程】研究指導教員一覧表（研究指導補助教員を含む）・・・・・・・・・・・・・・・ 41

Web 出願の流れ、出願写真に関する注意事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（巻末）

《各種様式・所定用紙》・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（別添）
博士前期課程提出用紙
「履歴書」、「志望理由書」、「承諾書」、「在職証明書」、「研究計画書」、「競技実績概要書」、「競技指導歴概要書」、
「外国人入学願書」、「入学試験に係る事前相談について」

出願資格認定審査提出用紙
「出願資格認定審査申請書」、「申請理由等概要書」、「職歴調書」、「研究歴概要書（様式）」、「競技実績概要書」、
「競技指導歴概要書」

Ⅰ．身体総合学術専攻　体育学研究群　博士前期課程について

１．人材養成その他教育研究上の目的

(1) 体育科学学位プログラム

体育スポーツに関する幅広い学識ならびに専門知識を習得し、体育スポーツの高度な指導力を有する指導者ならびに体育スポーツに関する専門知識と研究能力をもった高度職業人を養成することを目的とする。

学位プログラムのもとで学生自身が立てた学修プログラムや研究計画を尊重しつつ、学位プログラムの特性を生かし広い視野に立って精深な学識を授け、体育スポーツ分野における研究能力ならびに高度な専門性を要する職業に必要な能力を習得させる。

(2) 体育実践学学位プログラム

体育スポーツ・健康に関連した現代的問題を解決するための必要とされる専門知識ならびに体育スポーツのマネジメント・健康教育の現場への幅広い視野を有し、現場で生ずる問題に対する研究能力を備えた高度な指導力を有する指導者ならびに高度職業人を養成することを目的とする。

学位プログラムのもとで学生自身が立てた学修プログラムや研究計画を尊重しつつ、体育スポーツに関する幅広い学識と教養を備えるとともに、体育スポーツのマネジメント並びに健康教育実践に対する幅広い視野を養い、体育スポーツの現場における諸課題の解決能力を習得させる。

(3) コーチング科学学位プログラム

コーチングに関する実践課題を学術的に問い直し、現場に還元可能な理論的知見を創出する能力を備えた人材を育成する。運動学習やトレーニング科学などの自然科学に加え、心理学・社会学・教育学・哲学等の人文・社会科学の視点を横断的に活用し、コーチングの質の向上や指導者育成の革新に寄与する研究を推進できる、国際的視野と探究心をもつ研究者・専門職の養成を目指す。

体育・スポーツに関する幅広い学識と教養を基盤とし、国際的かつ学際的な視点からコーチングに関わる複雑な実践課題を捉え、理論的に探究・構造化する能力を育成する。多様な研究方法を柔軟に活用し、先駆的なコーチング学研究を推進するとともに、得られた知見を現場に還元し、コーチングの質の向上と指導者育成に貢献する力を涵養する。

(4) コーチング実践学学位プログラム

コーチング領域に関する幅広い学識と研究能力を基盤に、実践現場で高度な専門的指導を行うとともに、アスリートセンタード・コーチングを実践し、自己成長に主体的に取り組むロールモデルとして、他者の学びを支援できる人材を育成する。体系的な知識と柔軟な対応力をあわせ持ち、複雑な現場課題にも的確かつ創造的に対処できるコーチおよびコーチデベロッパーの養成を目指す。

体育・スポーツに関する幅広い学識と教養に基づいた研究能力を養うとともに、国際スポーツコーチングフレームワークに示された６つの基本的機能（①ビジョンと戦略の設定、②環境整備、③人間関係の構築、④練習の実施と試合の準備、⑤現場の理解と対応、⑥学習と内省）を実践的に遂行できる力を育成する。また、それらを支える、技術・戦術・トレーニングに関する専門的知識、学習者理解や関係性構築に関する対他者の知識、内省や自己認識に基づく対自己の知識を体系的に習得させる。

２．学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

(1) 体育科学学位プログラム

本学大学院学則及び関連規程に規定する修了の要件を充足した上で、次の知識･能力を有することが認定されたものに修士（体育科学）の学位を授与する。

《知識･理解》

［DP1］学際的知識

身体に関する学際的視点（体育学・教育学・保健医療学）に基づいた幅広い知識を有する。

［DP2］専門的知識

体育スポーツ科学に関する高度な専門的知識を修得し、最新の研究動向を理解している。

［DP3］倫理観

研究者または高度専門職業人として必要な倫理的知識と倫理観を備えている。

［DP4］国際性

体育スポーツ科学に関する知見を国際的視野から捉え、国際的な学術動向を把握している。

《専門的能力・汎用的能力》

［DP5］研究遂行力

自ら研究課題を設定し、適切な研究計画を立案・実施できる。

［DP6］論理的思考力

研究結果を的確に整理・考察し、成果として論理的にまとめることができる。

［DP7］発信力・表現力

専門知識や研究成果をわかりやすく構成し、的確に伝達できる。

(2) 体育実践学学位プログラム

本学大学院学則及び関連規程に規定する修了の要件を充足した上で、次の知識･能力を有することが認定されたものに修士（体育実践学）の学位を授与する。

《知識・理解》

［DP1］学際的知識

身体に関する学際的視点（体育学・教育学・保健医療学）に基づいた幅広い知識を有する。

［DP2］専門的知識

体育スポーツ科学に関する高度な専門的知識を修得し、最新の研究動向を理解している。

［DP3］倫理観

研究者または高度専門職業人として必要な倫理的知識と倫理観を備えている。

［DP4］国際性

体育スポーツ科学に関する知見を国際的視野から捉え、国際的な学術動向を把握している。

《専門的能力・汎用的能力》

［DP5］課題解決力

体育スポーツの現場で生じる課題を自ら発見し、実践的な解決策を考案することができる。

［DP6］論理的思考力

研究結果を的確に整理・考察し、成果として論理的にまとめることができる。

［DP7］発信力・表現力

専門知識や研究成果をわかりやすく構成し、的確に伝達できる。

(3) コーチング科学学位プログラム

本学大学院学則及び関連規程に規定する修了の要件を充足した上で、次の知識･能力を有することが認定されたものに修士（コーチング科学）の学位を授与する。

《知識･理解》

［DP1］学際的知識

身体に関する学際的視点（体育学・教育学・保健医療学）に基づいた幅広い知識を有する。

［DP2］専門的知識

コーチング学に関する高度な専門的知識を修得し、最新の研究動向を理解している。

［DP3］倫理観

研究者または高度専門職業人として必要な倫理的知識と倫理観を備えている。

［DP4］国際性

コーチング学に関する知見を国際的視野から捉え、国際的な学術動向を把握している。

《専門的能力・汎用的能力》

［DP5］研究遂行力

自ら研究課題を設定し、適切な研究計画を立案・実施できる。

［DP6］論理的思考力

研究結果を的確に整理・考察し、成果として論理的にまとめることができる。

［DP7］発信力・表現力

専門知識や研究成果をわかりやすく構成し、的確に伝達できる。

(4) コーチング実践学学位プログラム

本学大学院学則及び関連規程に規定する修了の要件を充足した上で、次の知識･能力を有することが認定されたものに修士（コーチング実践学）の学位を授与する。

《知識･理解》

［DP1］学際的知識

身体に関する学際的視点（体育学・教育学・保健医療学）に基づいた幅広い知識を有する。

［DP2］専門的知識

コーチング学に関する高度な専門的知識を修得し、最新の研究動向を理解している。

［DP3］倫理観

研究者または高度専門職業人として必要な倫理的知識と倫理観を備えている。

［DP4］国際性

コーチング学に関する知見を国際的視野から捉え、国際的な学術動向を把握している。

《専門的能力・汎用的能力》

［DP5］課題解決力

体育・スポーツの現場で生じる課題を自ら発見し、実践的な解決策を考案することができる。

［DP6］論理的思考力

研究結果を的確に整理・考察し、成果として論理的にまとめることができる。

［DP7］発信力・表現力

専門知識や研究成果をわかりやすく構成し、的確に伝達できる。

３．教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果を達成するため、「大学院共通科目」「体育学研究群共通科目」「体育学研究群基礎科目」「体育学研究群専門科目」「体育学研究群研究指導科目」により体系的に教育課程を編成している。

(1) 体育科学学位プログラム

［CP1］体育学、教育学、保健医療学など、身体に関する学際的な視点に基づく知識と研究倫理の理解を深めるため、「大学院共通科目」を配置し「身体総合学術論」を置く。

《DP に掲げる知識･能力》学際的知識・倫理観

［CP2］研究計画の立案、発表、討論を通じて、研究内容を論理的に構成し的確に伝える力を養うとともに、課題設定から検証、成果発表までの一連の研究プロセスを体系的に修得するため、「体育学研究群共通科目」を配置し「研究報告演習Ⅰ・Ⅱ」を置く。

《DP に掲げる知識･能力》研究遂行力・論理的思考力・発信力・表現力

［CP3］体育スポーツ科学の理論的基盤および専門的知識を修得することを目的として、「体育学研究群基礎科目」（各分野の特論など）を配置する。学生は所属コースの基礎科目を中心に履修しつつ、他コース・他学位プログラムの科目も選択することで、専門的知識及び学際的知識の深化を図る。また、外国語による学術文献等に触れることを通じて、外国語力を高め、国際的視野を養う。

《DP に掲げる知識･能力》専門的知識・学際的知識・国際性

［CP4］高度な専門的知識と研究技能を修得し、自身の研究課題を深化させることを目的として「専門科目」（演習や研究法など）を配置する。

《DP に掲げる知識･能力》専門的知識・研究遂行力

［CP5］指導教員のもとで、研究計画の立案から分析、論文検索（外国語論文含む）、論文執筆、成果発表に至る一連のプロセスを実践的に遂行することで、研究遂行力・論理的思考力・発信力・倫理観を総合的に育成するため、「体育科学研究Ⅰ～Ⅳ」を配置する。

《DP に掲げる知識･能力》研究遂行力・論理的思考力・発信力・倫理観・国際性

(2) 体育実践学学位プログラム

［CP1］体育学、教育学、保健医療学など、身体に関する学際的な視点に基づく知識と研究倫理の理解を深めるため、「大学院共通科目」を配置し「身体総合学術論」を置く。

《DP に掲げる知識･能力》学際的知識・倫理観

［CP2］研究計画の立案、発表、討論を通じて、研究内容を論理的に構成し的確に伝える力を養うとともに、課題設定から検証、成果発表までの一連の研究プロセスを体系的に修得するため、「体育学研究群共通科目」を配置し「研究報告演習Ⅰ・Ⅱ」を置く。

《DP に掲げる知識･能力》課題解決力・論理的思考力・発信力・表現力

［CP3］体育スポーツ科学の理論的基盤および専門的知識を修得することを目的として、「体育学研究群基礎科目」（各分野の特論など）を配置する。学生は所属コースの基礎科目を中心に履修しつつ、他コース・他学位プログラムの科目も選択することで、専門的知識及び学際的知識の深化を図る。また、外国語による学術文献等に触れることを通じて、外国語力を高め、国際的視野を養う。

《DP に掲げる知識･能力》専門的知識・学際的知識・国際性

［CP4］体育スポーツの実践の場の課題解決に必要な理論的知識と実践的手法を体系的に修得することを目的として「専門科目」（プラクティカム）を配置する。理論と実践を融合した授業を通じて、現場で生じる課題の発見から解決方法の考案・実践までのプロセスを経験することで、課題解決力を養う。

《DP に掲げる知識･能力》専門的知識・課題解決力

［CP5］指導教員のもとで、研究計画の立案から分析、論文執筆、成果発表に至る一連のプロセスを実践的に遂行することで、課題解決力・論理的思考力・発信力・倫理観を総合的に育成するため、「体育実践学研究Ⅰ～Ⅳ」を配置する。

《DP に掲げる知識･能力》課題解決力・論理的思考力・発信力・倫理観

(3) コーチング科学学位プログラム

［CP1］体育学、教育学、保健医療学など、身体に関する学際的な視点に基づく知識と研究倫理の理解を深めるため、「大学院共通科目」を配置し「身体総合学術論」を置く。

《DP に掲げる知識･能力》学際的知識・倫理観

［CP2］研究計画の立案、発表、討論を通じて、研究内容を論理的に構成し的確に伝える力を養うとともに、課題設定から検証、成果発表までの一連の研究プロセスを体系的に修得するため、「体育学研究群共通科目」を配置し「研究報告演習Ⅰ・Ⅱ」を置く。

《DP に掲げる知識･能力》研究遂行力・論理的思考力・発信力・表現力

［CP3］コーチングの基礎から専門に至る知識、研究手法、理論およびその実践を体系的に学ぶため、「基礎科目」（原論、特論、特論演習、研究法など）を配置する。学生は本学位プログラムの基礎科目を中心に履修しつつ、他コース・他学位プログラムの科目も選択することで、専門的知識及び学際的知識の深化を図る。また、英語による学術文献等に触れることを通じて、英語力を高め、国際的視野を養う。

《DP に掲げる知識･能力》専門的知識・学際的知識・国際性

［CP4］スポーツの種類（個人型、対人型、チーム型）に対応したコーチング理論やパフォーマンス分析に関する高度な知識を習得することを目的として、「専門科目」（各種コーチング論、パフォーマンス分析特論など）を配置する。スポーツ種目ごとのコーチングの特性を理解し、競技者のパフォーマンスを客観的かつ論理的に分析する力を養う。

《DP に掲げる知識･能力》専門的知識・研究遂行力

［CP5］指導教員のもとで、研究計画の立案から分析、論文検索（外国語論文含む）、論文執筆、成果発表に至る一連のプロセスを実践的に遂行することで、研究遂行力・論理的思考力・発信力・倫理観を総合的に育成するため、「コーチング科学研究Ⅰ～Ⅳ」を配置する。

《DP に掲げる知識･能力》研究遂行力・論理的思考力・発信力・倫理観

(4) コーチング実践学学位プログラム

［CP1］体育学、教育学、保健医療学など、身体に関する学際的な視点に基づく知識と研究倫理の理解を深めるため、「大学院共通科目」を配置し「身体総合学術論」を置く。

《DP に掲げる知識･能力》学際的知識・倫理観

［CP2］研究計画の立案、発表、討論を通じて、研究内容を論理的に構成し的確に伝える力を養うとともに、課題設定から検証、成果発表までの一連の研究プロセスを体系的に修得するため、「体育学研究群共通科目」を配置し「研究報告演習Ⅰ・Ⅱ」を置く。

《DP に掲げる知識･能力》課題解決力・論理的思考力・発信力・表現力

［CP3］コーチングの基礎から専門に至る知識、研究手法、理論およびその実践を体系的に学ぶため、「基礎科目」（原論、特論、特論演習、研究法など）を配置する。

学生は本学位プログラムの基礎科目を中心に履修しつつ、他コース・他学位プログラムの科目も選択することで、専門的知識及び学際的知識の深化を図る。また、英語による学術文献等に触れることを通じて、英語力を高め、国際的視野を養う。

《DP に掲げる知識･能力》専門的知識・学際的知識・国際性

［CP4］コーチングの実践の場の課題解決に必要な理論的知識と実践的手法を体系的に修得することを目的として「専門科目」（プラクティカム）を配置する。理論と実践を融合した授業を通じて、現場で生じる課題の発見から解決方法の考案・実践までのプロセスを経験することで、課題解決力を養う。

《DP に掲げる知識･能力》専門的知識・課題解決力

［CP5］指導教員のもとで、研究計画の立案から分析、論文検索（外国語論文含む）、論文執筆、成果発表に至る一連のプロセスを実践的に遂行することで、課題解決力・論理的思考力・発信力・倫理観を総合的に育成するため、「コーチング実践学研究Ⅰ～Ⅳ」を配置する。

《DP に掲げる知識･能力》課題解決力・論理的思考力・発信力・表現力・倫理観・国際性

４．入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

体育学研究群では各学位プログラムの教育目的を達成するために、以下の資質を有する学生を求めます。

(1) 体育科学学位プログラム

［AP1］体育スポーツ科学に関する基礎的な知識を有している者。

［AP2］体育スポーツ分野における指導者、研究者、啓発者などを志し、将来、国内外で積極的に体育・スポーツに携わる意欲をもつ者。

［AP3］体育スポーツ科学の研究や実践において、創造的な発想や発展の可能性を有し、新たな知見や価値の創出に意欲をもつ者。

［AP4］基礎的な英語力を有していることが望ましい。

(2) 体育実践学学位プログラム

［AP1］体育スポーツ科学に関する基礎的な知識を有している者。

［AP2］体育スポーツ分野における研究者、指導者、啓発者などを志し、将来、国内外で積極的に体育・スポーツに携わる意欲をもつ者。

［AP3］体育スポーツの実践において、主体的かつ創造的に課題解決に取り組む意欲を有する者。

［AP4］基礎的な英語力を有していることが望ましい。

(3) コーチング科学学位プログラム

［AP1］コーチング学に関する基礎的な知識を有している者。

［AP2］体育・スポーツ分野における指導者、研究者、啓発者などを志し、将来、国内外で積極的に体育・スポーツに携わる意欲をもつ者。

［AP3］体育・スポーツ科学の研究や実践において、創造的な発想や発展の可能性を有し、新たな知見や価値の創出に意欲をもつ者。

［AP4］基礎的な英語力を有していることが望ましい。

(4) コーチング実践学学位プログラム

［AP1］コーチング学に関する基礎的な知識を有している者。

［AP2］体育スポーツ分野における指導者、研究者、啓発者などを志し、将来、国内外で積極的に体育・スポーツに携わる意欲をもつ者。

［AP３］体育スポーツの実践において、主体的かつ創造的に課題解決に取り組む意欲を有する者。

［AP４］基礎的な英語力を有していることが望ましい。

Ⅱ．受験要領

１．募集人員

身体総合学術研究科　身体総合学術専攻

課程	学位プログラム	募集人員 （Ⅰ期、Ⅱ期募集合わせて）
博士前期課程	体育科学学位プログラム	31 名
	体育実践学学位プログラム	
	コーチング科学学位プログラム	14 名
	コーチング実践学学位プログラム	

２．出願資格

次の各号のいずれかに該当する者

(1)大学を卒業した者又は令和 9（2027）年 3 月 31 日までに卒業見込みの者

(2)大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された者又は令和 9（2027）年 3 月 31 日までに学士の学位を授与される見込みの者

(3)外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者又は令和 9（2027）年 3 月 31 日までに修了見込みの者

(4)外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者又は令和 9（2027）年 3 月 31 日までに修了見込みの者

(5)我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了したとされるものに限る。） を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者又は令和 9（2027）年 3 月 31 日までに修了見込みの者

(6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が 3 年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者又は令和 9 年(2027 年)3 月 31 日までに学士の学位に相当する学位を授与される見込みの者

(7)専修学校の専門課程（修業年限が 4 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）を文部科学大臣が定める日以後に修了した者又は令和 9（2027）年 3 月 31 日までに修了見込みの者

(8)文部科学大臣の指定した者（昭和 28 年文部省告示第 5 号）

(9)令和 9（2027）年 3 月末日で大学に 3 年以上在学し、優れた成績で所定の単位を修得したものと、本大学院が認めた者

(10)本大学院において行う個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると本大学院が認めた者で、入学時までに 22 歳に達する者

※重要：出願資格(9)(10)の該当者は、事前に出願資格認定審査が必要です。
《出願資格認定審査について》を確認し手続きをしてください。出願資格認定審査の申請をして、審査の結果、出願資格が認定された者は本研究科の入学試験に出願することができます。

３．学位プログラム及びコース

学位プログラム	コース
体育科学学位プログラム	体育スポーツ文化社会学コース
	スポーツマネジメントコース
	ハイパフォーマンス科学コース
	健康スポーツ医科学コース
	身体教育・健康教育コース
	スポーツ国際コース
体育実践学学位プログラム	スポーツマネジメントコース
	身体教育・健康教育コース
コーチング科学学位プログラム	
コーチング実践学学位プログラム	

４．入学試験日程等

	Ⅰ期試験	Ⅱ期試験
出　願　期　間 （Web 出願登録、出願書類受付期間） ※期間内消印有効	2026 年 10 月 2 日(金) ～2026 年 10 月 9 日(金)	2026 年 12 月 21 日(月) ～2027 年 1 月 8 日(金)
試　　験　　日	2026 年 11 月 7 日(土)	2027 年 2 月 6 日(土)
合 格 発 表 日	2026 年 11 月 13 日(金)	2027 年 2 月 12 日(金)
入学手続締切日	2026 年 11 月 27 日(金)	2027 年 2 月 26 日(金)

５．選抜区分及び出願要件

選抜区分	対象学位プログラム	出願要件
一般選抜	全学位プログラム	「２.出願資格」に該当する者
スポーツ選抜	全学位プログラム	「２.出願資格」に該当し、次の①、②のいずれかに該当する者 ①競技実績で出願する者 別表 A の出願基準を満たしている者 但し、年齢制限のあるユース大会等の場合、大会出場時の年齢が満 18 歳以上であったこと ②指導実績で出願する者 ※コーチング科学学位プログラム、コーチング実践学学位プログラムのみ対象となります。 別表 A 内の大会に該当する運動競技の指導歴を有する者 但し、学生コーチは除く
社会人選抜	全学位プログラム	「２.出願資格」に該当し、次の①、②のいずれかに該当する者 ①入学時にまでに常勤・非常勤を問わず 1 年以上の社会的経験（企業・官公庁・教育関係機関等での就業。家事従事等の経験を含む。）を有する者(見込み含む) ②別表 B に該当する JICA が行う海外協力隊事業の隊員として体育・スポーツの指導に関わる社会貢献活動の経験を入学時に原則として 1 年以上を有する者 ※注意：本学研究科の授業は、社会人専用の時間割編成はしていません。授業の開講方法等については、本学ホームページにて確認してください。
外国人選抜	全学位プログラム	わが国における「留学」の在留資格を有する者又は本研究科入学までに資格を取得する予定の者で「２.出願資格(3)、(4)、(5)、(6)」のいずれかに該当し、日本国籍を有しない者 ※注意：入学試験ならびに本研究科の授業は、原則日本語で行います。

※出願資格(9)、(10)の該当者は、事前に出願資格認定審査の申請をして、審査の結果、出願資格が認定された場合に**一般選抜**で出願することができます。

別表 A

大会	成績基準
(a)夏季・冬季オリンピック大会 (b)夏季・冬季パラリンピック大会 (c)ワールドカップ大会(シニア大会) (d)世界選手権大会(シニア大会)	いずれかの大会において、国を代表する正規選手※1として出場実績のある者
(e)ユニバーシアード競技大会 (f)FISU ワールドユニバーシティゲームズ （※旧ユニバーシアード競技大会) (g)ワールドカップ大会(年齢制限あり) (h)世界選手権大会(年齢制限あり) (i)アジア競技大会	いずれかの大会において、国を代表する正規選手※1として出場し、8 位入賞以上の競技実績をもつ者
日本選手権大会	正規選手※1 として出場し、8 位入賞以上の競技実績をもつ者
日本学生(大学)選手権大会	正規選手※1 として出場し、4 位入賞以上の競技実績をもつ者
各種競技大学リーグ	正規選手※1 として出場し、優勝または準優勝の競技実績をもつ者、または主催する団体から個人に与えられる表彰を得た者
各種プロスポーツ　※2	プロスポーツのトップリーグ等で、優秀な実績のある者

※1「正規選手」とは、成績基準を満たした大会に出場したレギュラー選手であり、補欠(サブ)選手は含まれない。
※2「各種プロスポーツ」とは、上記表に記載された大会に関連する競技（種目）を対象とする。
(重要) 別表 A に記載された内容は、スポーツ選抜区分の出願資格に関する基準であり、合否基準ではありません。

別表 B

（1）青年海外協力隊　（2）日系社会青年協力隊　（3）シニア海外協力隊　（4）日系社会シニア協力隊

６．出願書類

出願書類のうち所定用紙となっているものは、別添《各種様式・所定用紙》から印刷して作成してください。

※提出する各種証明書の記載氏名が出願時の氏名と異なる場合は、氏名変更が確認できる戸籍抄本等の書類もあわせて提出してください。

●：全員提出　△：該当者のみ提出

（注意：提出書類について） 提出書類のサイズは全て「A4 サイズ：片面印刷」で提出してください。		提出該当者			
		一般選抜	スポーツ選抜	社会人選抜	外国人選抜
出願書類	連絡事項・注意事項				
(1)志願票・写真票	Web 出願完了後、Web 出願サイトより印刷してください。 余白および志願票・写真票は切り離してください。	●	●	●	●
(2)履歴書（所定用紙）	「学歴」欄は高等学校から記入してください。但し、外国の学校教育を受けたことがある者は小学校から記入してください。 大学、研究所等で研究生等として研究歴がある場合は、その期間も記入してください。 「職歴」欄は勤務していた全ての職を年月順に記入してください。社会貢献活動の経験はこの欄に記入してください。	●	●	●	●
(3)志望理由書（所定用紙）	必ず希望する研究指導教員と履修・研究等について相談し、指導の同意を得てください。 ・「2027 年度研究指導担当教員及び研究指導領域」、「[博士前期課程］研究指導教員一覧表(研究指導補助教員を含む)」参照。	●	●	●	●
(4)学業成績証明書	出身大学長が作成したもの。	●	●	●	●
(5)卒業(見込)証明書	出身大学長が作成したもの。 ※出願資格に関わるもの	●	●	●	●
(6)承諾書（所定用紙）	入学後に在職予定の者は、雇用責任者または代表者の承諾書を提出してください。個人事業主の場合は不要。	△	△	△	△
(7)在職証明書（所定用紙）または派遣証明書 ※所定用紙と同内容であれば、所属機関が発行したものでも可。	○全学位プログラム 【社会人選抜】で出願する者 出願要件を満たすことを証明できる在職証明書または派遣証明書を提出ください。但し、ご事情により在職証明書が提出できない場合は、第 3 者の証明による書面等をご提出頂くことでも構いません。在職証明書以外の第 3 者の証明による書面は、例えばハローワークで発行される雇用保険受給資格者証や、勤務先における健康保険証に記載の雇用開始日（資格取得年月日）により期間を確認することができますので、こちらのコピーを在職証明書の代わりに提出することも可能とします。			●	

(8)研究計画書（所定用紙）	A４版の用紙（横書き）で、パソコン等により 2,000 字程度で作成し、片面印刷したものを所定用紙に添付してください。 以下の内容に沿って作成すること。 ①研究の背景と目的　②研究の方法　③予想される結果	●	●	●	●
(9)競技実績概要書 （所定用紙）	○全学位プログラム 【スポーツ選抜：競技実績】で出願する者 ※競技実績を立証できる書類も提出すること		△ ※		
(10)競技指導歴概要書 （所定用紙）	○コーチング科学学位プログラム、または コーチング実践学学位プログラム 【スポーツ選抜：指導実績】で出願する者 ※指導歴を立証できる書類も提出すること		△ ※		
	○全学位プログラム 【社会人選抜：②の該当者】で出願する者 ※指導歴を立証できる書類も提出すること			△ ※	
(11)外国籍を有する者の出願書類	外国籍を有する者は、出願書類の他に、以下の書類を提出してください。 現に日本国内に在住し、在留資格が「特別永住者」、「永住者」の者は①住民票の写しまたは住民票記載事項証明書のみ提出。 ①住民票の写しまたは住民票記載事項証明書（3 か月以内に発行されたもので、国籍、在留資格、在留期間を明記したもの） ②在留カードの写し ③外国人入学願書（所定用紙） ④日本語能力を証明する書類 日本留学試験（EJU）の成績証明書(日本語科目の読解、聴解・聴読解 240 点以上、記述 30 点以上)、または日本語能力試験（JLPT）N1 の合格証明書 ⑤パスポートの氏名・生年月日が記載されたページの写し	△	△	△	●

在留外国人の方・外国の学校出身の方へ

★ 在留外国人の方は、必ず確認してください。

最終学歴の各種証明書について

日本国外（中国を除く）の大学・大学院を卒業・修了した方

卒業・修了証明書等に取得学位の記載がない場合には、学位取得証明書も提出してください。

中国の学校を卒業または修了した方は、「中国の学校を卒業・修了された方へ」に記載されている通りに書類を提出してください。

最終学歴の各種証明書は、原則として日本語または英語で表記された原本に限ります。

日本語または英語以外の言語で表記されている場合は以下の書類を提出してください。

各種証明書の原本※	出身学校から発行されたもの。 出身学校から 1 部しか発行されない場合は、公的機関が発行する Certified true copy でも構いません。
日本語または英語翻訳文※	大使館や自国公証処等の公的機関で認証を受けたものに限る。

※日本語教育機関（日本語学校等）が発行・認証するものは認めません。

中国の学校を卒業・修了された方

中国の学校を卒業・修了された方は、以下の書類を提出してください。

証明書類の入手に時間を要することが想定されます（申請から発行まで 5 週間程度かかる場合もあります）ので、早めに準備をしてください。

（1）卒業証書・卒業証明書「学歴認証書」(Verification Report of China Higher Education Qualification Certificate)

CHSI（中国高等教育学生信息網）が発行し、英文で記載されたもの。

※1 Online Verification Report of China Higher Education Qualification Certificate を提出する場合は下記の注意をよく読んで手続きしてください。

（2）成績証明書 「成績認証書」(Verification Report of China Higher Education Student's Academic Transcript)

CHSI（中国高等教育学生信息網）が発行し、英文で記載されたもの。

※1 Online Verification Report of China Higher Education Student's Academic Transcript を提出する場合は下記の注意事項をよく読んで手続きしてください。

（3）学位取得証明書「学位認証書」(Verification Report of China Higher Education Degree Certificate)

CHSI（中国高等教育学生信息網）が発行し、英文で記載されたもの。

博士前期課程を受験する方は、学士学位（Bachelor's Degree）を取得していることが証明されていること。

※ 1 Online Verification Report of China Higher Education Degree Certificate を提出する場合は下記の注意をよく読んで手続きしてください。

学歴、成績、学位の認証書は CHSI 中国高等教育学生信息網（ https://www.chsi.com.cn/en/pvr/ ）が取り扱っています。

日本国内では CHSI 日本代理機構（ http://www.chsi.jp/ ）での発行申請が可能です。

※ 1 電子データの認証書を提出する場合は、出願期間内に CSSD 教育部学生服务与素质发展中心から直接、日本体育大学大学院教学センター（ daigakuin@nittai.ac.jp ）に電子メールで送信されるように申請してください。

志願者による電子メールの転送は出願書類として認めません。出願期間を過ぎた場合は出願を受理しないことがありますので、気をつけて手続きしてください。

7．外国籍を有する者の出願書類について

外国籍を有する者は、「6．出願書類」を確認し、所定用紙を提出してください。

なお、本学では保証人は出願時には必要としませんが、入学手続時に保証人を定めて届けることとしています。保証人は日本国籍を有する成年であって、日本国内に居住し独立の生計を営む者とします。

８．障がい等のある入学志願者の事前相談について

けが及び障がい等により受験時または入学後の配慮を希望する場合は、下記《事前相談の方法》を確認し、必ず事前相談をしてください。

なお、重度の障がいのある方は、できる限り早い時期にご相談ください。

《事前相談の方法》

事前相談の申請は、「申請書類」の「入学試験に係る事前相談について」を作成の上、医師の診断書などの必要な書類を添付して提出してください。

※ 提供いただいた個人情報は、支援内容検討のために関係部署と共有します。

なお、必要な書類に不明な点がある場合は、提出前に大学院教学センターに確認してください。

申請書類

（１） 「入学試験に係る事前相談について」（所定用紙）
（２） 医師の診断書（原本又は写し）
（３） 身体障害者手帳（氏名・障がい名の頁の写し）（所持者）
（４） その他相談する際に必要と考えられる参考資料

９．出願手続

「Web 出願の流れ」を確認して手続きしてください。出願は Web 出願サイトでの登録完了後、入学検定料を支払い、必要書類を郵送して完了となります。登録しただけでは出願は完了していませんので注意してください。

Web 出願は 24 時間可能です。ただし、出願登録は出願締切日 23 時まで、入学検定料の支払いは出願締切日まで（営業時間はコンビニエンスストアや ATM など、施設によって異なります)、必要書類の郵送は出願期間内消印有効です。

（１）入学検定料の支払い

入学検定料：１受験につき３５，０００円

Web 出願サイト「STEP 5 （入学検定料の支払い)」に従って支払手続きをしてください。

（２）出願書類の郵送

書類の郵送：出願期間内消印有効

Web 出願完了後に、Web 出願サイトより宛名シートを印刷し、貼付した角 2 封筒に提出書類を封入して、「速達･特定記録郵便」で郵送してください。「特定記録郵便物等受領証」は保管しておいてください。なお、窓口での出願受付は行っておりません。詳細については、「STEP 6 （必要書類の郵送)」を確認してください。

①志願票・写真票

入学検定料支払後、出力可能となります。A4 サイズで印刷し、切り取り線に沿って切り取ってください。

②選抜毎の提出書類

詳細は、各選抜の提出書類を確認してください。

◎注意事項

① 不備のある出願書類や出願締切日後に到着した出願書類は一切受け付けません。
② 一度提出した出願書類及び支払われた入学検定料は一切返還しません。

【入学検定料の返還請求（払込手数料を除く）ができる場合】

・入学検定料を支払ったが、本学に出願書類を発送しなかった。または出願書類が受理されなかった。
・入学検定料を誤って二重に支払った。

③ 提出書類の内容に虚偽があった場合は、出願や合格を取り消すことがあります。

１０．受験票について

出願書類到着後、Web 出願の登録内容をもとに本学が作成し、Web 出願サイトよりダウンロードできる状態にしますので、必ず印刷し、試験当日持参してください。「STEP 7 （受験票の印刷)」を参照のこと。

※ 受験票のダウンロードが可能になりましたら、出願時に登録したアドレスへメールで通知します。

※ 試験 3 日前までに Web 出願サイト上に受験票が確認できない場合、大学院教学センターまで連絡してください。

１１．選抜要領

〔試験実施日〕

Ⅰ期試験：2026 年 11 月 7 日（土） 東京・世田谷キャンパス 教育研究棟
Ⅱ期試験：2027 年 2 月 6 日（土） 東京・世田谷キャンパス 教育研究棟

① 体育科学学位プログラム　② 体育実践学学位プログラム
③ コーチング科学学位プログラム　④ コーチング実践学学位プログラム

選抜区分	受付時間	試験時間	試験科目	内容・留意事項等
一 般 選 抜	8:30～9:00	9:30～10:30	専門科目 （60 分）	**（全学位プログラム共通）** 出題された 7 問題から 2 問題を解答する。
		11:00～12:00	英語 （60 分）	**（全学位プログラム共通）** 英文読解 出題された 3 問題から 2 問題を解答する。 ※ 語学辞書の使用可(「12.受験上の注意」参照)
		12:20～	口述試験	**（①②両学位プログラム共通）** 1）コース毎に実施する。 2）卒業論文及び研究計画を中心に日本語で行う。
				（③④両学位プログラム共通） 卒業論文及び研究計画を中心に日本語で行う。
スポーツ選抜 社会人選抜	8:30～9:00	9:30～10:30	専門科目 （60 分）	一般選抜に同じ
		11:00～	口述試験	一般選抜に同じ
外 国 人 選 抜	8:30～9:00	9:30～10:30	専門科目 （60 分）	一般選抜に同じ ※ 解答は日本語に限る
		11:00～	口述試験	**（①②両学位プログラム共通）** 1)専門分野 卒業論文及び研究計画を中心に 原則日本語で行う。 2)日本語能力 専門分野に関する基本的な内容に沿って日本語で口頭試問を行う。 **（③④両学位プログラム共通）** 1)専門分野 卒業論文及び研究計画を中心に 原則日本語で行う。 2)日本語能力 コーチングに関する基本的な内容に沿って日本語で口頭試問を行う。

１２．受験上の注意

（１）試験当日の注意事項

① 持参するものについて
「受験票」、「筆記用具」、「時計(辞書、電卓、端末等の機能があるものを除く)」、「昼食・飲み物」（任意）
※受験票を紛失または忘れた場合は、試験当日、受付に申し出てください。

② 受付で受験票を提示してください。受付後は、速やかに指定された試験場へ入室してください。また、受付後に担当者の許可無くキャンパス内を出歩くことはできません。なお、試験終了までキャンパス内から出ることはできません。

③ 携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチ、ウェアラブル端末等の電子機器類は試験場に入る前に必ずアラームの設定を解除し電源を切り、すべての試験が終了するまでかばん等にしまってください。

④ 車での来学はできません。公共交通機関をご利用ください。
試験前日までに可能な限り試験場までの道順、所要時間等を実際に確認しておいてください。

⑤ 試験開始後 30 分を超えた遅刻は認めません。

⑥ 公共交通機関の事故等により、受付時間に間に合わない場合は、直ちに大学院教学センター（03-5706-0915）へ連絡するとともに、交通機関において遅延証明書の交付を受けてください。

⑦インフルエンザ等の感染症にかかり治癒していない者は、他の受験生に感染するおそれがあるため受験はできません。試験当日の体調管理については十分に注意してください。なお、上記により受験をご遠慮いただいた場合でも、追試験などの措置、入学検定料の返還は行いません。

（２）試験時間中の注意事項

①「受験票」は、試験担当者が見やすいように机上に置いてください。

②「受験票」の他に試験時間中、机上に置けるものは、以下とします。

- 黒鉛筆（HB)、シャープペンシル（HB）
- 鉛筆キャップ
- プラスチック製消しゴム
- 鉛筆削り（電動式・ナイフ類を除く）
- 時計（辞書、電卓、端末等の機能があるものを除く）
- 眼鏡
- ハンカチ
- ティッシュペーパー（袋または箱から取り出した紙のみであること）
- 目薬

※英語試験時は語学辞書の使用が可能です。なお、使用可能な辞書とは、「英和辞書」、「中日辞書」、「韓日辞書」等の語学辞書に限ります。電子辞書、電子手帳等は使用できません。また、医学等専門用語の語学辞書は使用できません。（付箋等は予め取り除いてください。）

③「耳せん」は、試験担当者の指示等が聞き取れないことがありますので試験場内では使用できません。

④ 試験時間中に退室はできません。体調不良またはトイレ等やむを得ない場合には、手を挙げて試験担当者の指示に従ってください。但し、一時退室が認められた場合でも、一時退室した間の試験時間の延長はできません。また、別室での受験もできません。

⑤ 試験時間中は、試験監督者の指示に従ってください。従わない場合は不正行為となることがあります。

１３．合格発表

Ⅰ期試験：2026 年 11 月 13 日（金）10 時

Ⅱ期試験：2027 年　2 月 12 日（金）10 時

合格発表は合格者のみ通知します。学内掲示は行いません。本学の正式な合格発表は、合格発表日に合格証明書等の発送をもって行いますが、受験生の便宜を考慮し、「合否照会システム（インターネット）」による合否案内を行います。

なお、不合格通知書は送付いたしません。また、本学に直接連絡をしても合否に関わるお問い合わせは一切受け付けませんので、下記照会方法をご確認ください。

（１）利用方法・注意点

① インターネット、スマートフォン及び携帯電話で利用できます。

② 合否照会について、「誤操作」及び「見間違い」を理由とした、入学手続期間終了後の入学手続は認めません。

③ 合否発表当日は混雑のため回線がつながりにくいことがあります。その場合は、少し時間をおいてアクセスしてください。

④ 合否照会システムの利用期間は次のとおりです。

合否照会システム利用期間		
Ⅰ期試験	2026 年 11 月 13 日（金）～ 2026 年 11 月 27 日（金）	初日 10：00 ～
Ⅱ期試験	2027 年 2 月 12 日（金）～ 2027 年 2 月 26 日（金）	最終日 23：59 まで

（２）インターネット（携帯電話・パソコン）での照会

https://www.gouhi.com/nittai/

合否照会システム利用期間内に上記アドレスへアクセスし、画面の指示に従って操作してください。
また、本学ホームページ（https://www.nittai.ac.jp/）より、上記アドレスへアクセスできますので、ご利用ください。

１４．入学手続

（１）入学手続時納入金の手続締切日

Ⅰ期試験：2026 年 11 月 27 日（金）

Ⅱ期試験：2027 年 2 月 26 日（金）

① 入学手続時納入金は、合格証明書に同封されている所定の「振込用紙」を使用し、手続締切日までに金融機関窓口で手続きを行ってください。

② 合格者で手続締切日までに入学手続時納入金が未納だった場合は、入学辞退とみなしますので注意してください。

③ 振込金受領書（本人保存）は、入学手続きをした証明になりますので大切に保管してください。

（２）入学辞退について

【窓口】 2027 年 3 月 31 日（水） 17：00 まで

【郵送】 2027 年 3 月 31 日（水） 消印有効（速達・特定記録郵便としてください。）

入学手続時納入金を振込み後、入学を辞退する場合は、上記期限までに入学辞退届（所定用紙）を提出してください。
入学金を除く納入金を返還します。なお、返還には期間を要しますので、早急に手続きをしてください。

○提出先：日本体育大学 大学院教学センター
〒158-8508 東京都世田谷区深沢 7－1－1
TEL 03-5706-0915
事務取扱時間：平日 8:30 ～ 17:00
冬季一斉休業期間：2026 年 12 月 26 日（土）～ 2027 年 1 月 5 日（火）

１５．学　　費

授業料及び施設整備費は、全額の 1/2 相当額を後学期に分納することができます。その場合、入学手続時の納入金額は、入学金・授業料（前学期分納分）・施設整備費（前学期分納分）・健康管理費・学友会費・同窓会入会金の合計金額となります。後学期は授業料（後学期分納分）・施設整備費（後学期分納分）のみとなります。

2027 年度 日本体育大学大学院身体総合学術研究科　博士前期課程学費等一覧　（円）

費　目		納入期	金　額			
			日本体育大学以外の卒業生		日本体育大学卒業生	
			前学期	後学期	前学期	後学期
①学　費	入学金	入学時のみ	100,000	－	0	－
	授業料	分納可	350,000	350,000	350,000	350,000
	施設整備費	分納可	50,000	50,000	50,000	50,000
	健康管理費	前学期	10,000	－	10,000	－
②その他費用	学友会費	前学期	13,000（入会金 1,000 円を含む）	－	12,000	－
	同窓会入会金	入学時のみ	20,000	－	0	－
総合計（①＋②）		分納の場合	543,000	400,000	422,000	400,000
		一括納入の場合	943,000		822,000	

※　日本学生支援機構貸与奨学金「授業料後払い制度」があります。制度の利用を希望する方は、事前に大学院教学センターまでお問い合わせください。

《寄付金について》

本学では、教育研究環境充実のため、寄付金を募集する場合があります。

但し、いずれも応募は任意で、入学前には募集いたしません。

●「国の教育ローン」（教育貸し付け）について

「国の教育ローン」は、「家庭の経済的負担の軽減」、「教育の機会均等」という目的のために昭和 54 年に創設された公的な融資制度です。民間金融機関の補完を旨とする政策金融機関である日本政策金融公庫（日本公庫）が扱っています。

詳しくは教育ローンコールセンター 0570－008656（03－5321－8656）、または「国の教育ローン」で検索、https://www.jfc.go.jp/から「国の教育ローン」を選択してください。

１６.出願前の個別審査が必要な方へ
≪出願資格認定審査について≫

本学大学院研究科では、「学校教育施行規則第 155 条第 1 項第 8 号の規定」により、前記「出願資格（9)、(10)」に該当する出願資格認定対象となる方について、出願資格の有無を判定するために予備審査を行います。

「出願資格認定審査」は、入学者選抜試験ではありませんので注意してください。

① 「 2. 出願資格（9)」で出願資格認定審査の対象となる場合

(1) 入学時に、大学在学期間が 3 年間に達すること。

(2) 大学 2 年次修了までに 80 単位以上を修得していること。

② 「 2. 出願資格（10)」で出願資格認定審査の対象となる場合

以下のいずれかに該当する者

(1) 高等学校を卒業した者

(2) 短期大学を卒業した者

(3) 高等専門学校を卒業した者

(4) 専門学校を修了した者で、次の基準を満たす者

A. 修業年限が 2 年以上で、かつ修了に必要な総授業時数が 1700 時間（62 単位）以上課程を修了した者

B. 学校教育法に規定する大学入学資格（高等学校卒業など）を有する者

(5) 各種学校を卒業した者

出願資格認定審査要領

審査を希望する方は、必ず大学院教学センターまで事前相談を済ませた上で申請願います。

出願資格認定審査には、下記書類の提出が必要になります。提出期限等を確認の上、お早目にご準備ください。

事前相談を済ませていない場合は申請できません。また、上記条件を満たした方すべてに受験資格が認められるとは限りませんので注意してください。

※出願資格認定審査に提出した書類内容に虚偽が発生した場合は、入学試験に合格した場合でも合格の取り消しとなりますので注意願います。

・提出書類　※は必要に応じて提出

出願資格（9）

① 出願資格認定審査申請書（所定用紙）
② 学業成績証明書
③ 受験承諾書（学長又は学部長が発行するもの：様式任意）
④ 卒業論文またはこれに準ずるもの等

出願資格（10）

① 出願資格認定審査申請書（所定用紙）
② 申請理由等概要書（所定用紙）
③ 卒業（見込）証明書（最終学歴のもの）
④ 学業成績証明書（最終学歴のもの）
⑤ 職歴調書（所定用紙）※
⑥ 在職証明書※
⑦ 研究歴概要書（所定用紙）※
⑧ 競技指導歴概要書（所定用紙）※
⑨ 競技実績概要書（所定用紙）※

・提出方法

封筒に、「出願資格認定審査書類在中」と朱書きし、必ず「**速達・特定記録郵便**」で必要な書類を大学院教学センターに郵送してください。「特定記録郵便等受領証」は保管しておいてください。

・提出先　〒158-8508　東京都世田谷区深沢 7 - 1 - 1　日本体育大学 大学院教学センター

・書類提出期限（郵送のみ）

Ⅰ期試験：2026 年 9 月 4 日（金）必着　　Ⅱ期試験：2026 年 12 月 1 日（火）必着

・審査結果

Ⅰ期：2026 年 9 月 11 日（金）、Ⅱ期：2026 年 12 月 11 日（金）

登録されたメールアドレスにお知らせします。

Ⅲ．2027年度 研究指導担当教員及び研究指導領域

体育科学、体育実践学、コーチング科学、コーチング実践学学位プログラム　博士前期課程

研究指導担当教員の表記内容		
★★	研究指導教員	研究指導を担当することができる
★	研究指導補助教員	研究指導教員とともに研究指導ができる

【注意事項】
出願前に必ずご自身の希望する研究指導教員、または研究指導補助教員と連絡を取り、担当教員とご自身の考えている研究内容を十分にご相談して下さい。事前の連絡を取らずに出願する事がないようにして下さい。

教員検索（大学HP 教員情報データベース）	研究者検索（国立研究開発法人科学技術振興機構）

■体育科学学位プログラム、体育実践学学位プログラム（コース毎）

（体育スポーツ文化社会学コース）

教員名	研究指導領域
★★ 教授　荻　浩三 修士（体育学）	研究分野：スポーツ史
	研究内容のキーワード：スポーツ史、体育史、スポーツ地理学
	「スポーツ史」 ① 一般研究領域（一般史） 「スポーツ通史」「世界スポーツ史」「時代別スポーツ史」「地域別スポーツ史」、など ② 個別研究領域（特殊史） 「スポーツ競技種目史」「スポーツ思想・人物史」「スポーツ教育史」「スポーツ産業史」「スポーツ形態史」「スポーツ学説史」「スポーツ施設・用具史」「スポーツ技術史」など
★★ 教授　関根　正美 博士（体育科学）	研究分野：体育・スポーツ哲学
	研究内容のキーワード：体育・スポーツ哲学
	スポーツ哲学、体育哲学、スポーツ倫理学 ① オリンピックの思想　② スポーツ指導者論　③ スポーツと暴力　④ スポーツ美学論、舞踊論 ⑤ ドーピング、フェアプレイ　⑥ 科学技術とスポーツなど。
★★ 教授　谷釜　尋徳 博士（体育科学）	研究分野：スポーツ史
	研究内容のキーワード：スポーツ史、運動文化史、遊戯史、身体技法、技術・戦術史、伝統芸能史、旅行史、武術・武道史、オリンピック史、バスケットボール史
	スポーツ史とは、スポーツに関わる今日的な問題点に端を発して、それを解決しようとする手掛かりを歴史的な世界に見出そうとする学問分野です。研究指導領域の一例は、以下の通りです。 ・スポーツの伝播／受容／普及の歴史 ・スポーツの技術／戦術の歴史 ・スポーツの修練（練習・稽古）／コーチングの歴史 ・スポーツの用具／施設／産業の歴史 ・スポーツの人物／ルール／制度／学説の歴史
★★ 教授　波多腰　克晃 博士（体育科学）	研究分野：スポーツ哲学、体育哲学、スポーツ倫理
	研究内容のキーワード：体育・スポーツ思想・哲学、スポーツと共同体、スポーツと他者論
	体育・スポーツにおける共同体の形成、スポーツと他者論について研究しています。 ①ドイツのスポーツクラブ研究　②スポーツの文化研究　③スポーツと大衆化論　④スポーツと暴力 ⑤オリンピックの思想　⑥ドイツ体操・スポーツの思想など。

教員名	研究指導領域
★★ 教授　依田　充代 博士(スポーツ健康科学)	研究分野：体育・スポーツ社会学
	研究内容のキーワード：体育・スポーツ社会学
	スポーツ社会学 スポーツ社会学はスポーツと社会の関わりを追及する学問です。また、スポーツの社会学的現象を明らかにし、そこに起きる問題の解決をめざした研究を展開する学問でもあります。研究領域は多岐にわたりますが、具体的にいくつかの研究領域を以下に紹介しておきます。 ① スポーツ社会学の内容と方法　② スポーツと薬物　③ スポーツと暴力　④ 社会規範とスポーツ　⑤ スポーツと政治　⑥ スポーツと経済　⑦ スポーツと環境　⑧ スポーツとマスメディア　⑨ 学社融合　⑩ スポーツ・ボランティア　⑪ スポーツ情報学　⑫ 地域スポーツ　など。

（スポーツ国際コース）

教員名	研究指導領域
★★ 教授　金田　英子 博士（医学）	研究分野： 国際保健（文化・社会的文脈を含む）、国際学校保健、スポーツを手段とした健康支援研究
	研究内容のキーワード：スポーツ（手段）、健康、生活習慣、宗教と健康、文化と健康、社会と健康、学校、保健所、地域、村落、フィールドワーク、量的研究、混合研究、健康行動、国際協力、現場志向の実証研究
	国際保健・国際学校保健を基盤に、文化・社会的背景を踏まえた公衆衛生課題に対し、スポーツや運動を手段としてアプローチする実証研究を行います。スポーツはそれ自体を目的とするのではなく、健康行動の変容や人々の関係性、地域の実践を理解するための切り口として位置づけます。対象は学校、保健所、地域・村落などの現場で、人々が何を考え、どのように行動しているのかをデータに基づいて分析します。データはフィールド調査に加え、既存の二次資料の活用も可能で、社会人は自身の実務現場を研究対象とすることも歓迎します。量的研究または混合研究を中心とし、フィールド調査の経験がない人でも段階的に取り組めるよう指導します。
★★ 准教授　寺岡　英晋 博士（教育学）	研究分野： スポーツ教育学
	研究内容のキーワード：世界の学校体育、カリキュラム分析、教師行動、学習成果評価、異文化理解、国際協力
	スポーツおよび学校体育を対象に，教育学的視点から国際的な教育課題の解決に資する知見の創出を目指します。特に，異なる文化・制度的背景におけるカリキュラムや授業実践を比較し，教師行動や学習経験の質が学習成果や生涯にわたるスポーツ参与に及ぼす影響などを実証的に検討します。具体的には、以下のようなテーマが研究指導領域になります。 ・ スポーツを通した国際協力・異文化理解の促進に関する研究 ・ 国際比較に基づくカリキュラム分析と授業改善 上記以外でも、教育学的研究で関連するキーワードに該当するテーマも歓迎します。
★★ 准教授　福井　元 修士（体育科学）	研究分野：スポーツ史
	研究内容のキーワード：スポーツの技術・戦術史、施設・用具史、野球史
	スポーツの用具・施設の変化により、ルール及び技術や戦術はどのように変化するかというテーマのもと、スポーツに携わった人のみが解読することができる、ゲームのスコア等を史料として、スポーツの技術史といわれる分野の研究に取り組んでいます。 他にも、野球に関する諸々の研究や、人物に関する研究も興味があります。

教員名	研究指導領域
★★ 准教授　松浪　登久馬 修士（体育科学）	研究分野： スポーツ人類学、スポーツ史
	研究内容のキーワード：スポーツ人類学、民族スポーツ、伝統スポーツ、北米先住民族、球戯
	北米先住民族における伝統的な、あるいは民族的な「球戯」を研究対象としてきた。 一般に「球技」と称されるスポーツは、近代以降にルールが規格化・統一されたことで国際的な普及を遂げた。対して、先住民族の「球戯」は、ルールの共有範囲が地域限定的であり、その目的や用具の形態も極めて多様である。 このように、近代スポーツとしての「球技」と伝統的・民族的な「球戯」は、身体運動としては類似しながらも、その社会的・文化的文脈において質的に異なる存在である。両者を比較検討し、看過されがちな「球戯」の独自性に目を向けることは、人類の文化的多様性を理解（異文化理解）する上で不可欠な課題であると考えている。
★★ 教授　山口　和之 博士（Linguistics）	研究分野：認知科学、言語学、英語学、外国語教育
	研究内容のキーワード：認知言語学、言語と認知、類型論、言語の意味変化
	言語と認知・経験の関係を研究してきました。分野としては、認知言語学という、認知科学の一分野になります。具体的には、言語の意味変化、メタファー、言語や意味構造に反映される人間の一般認知能力や経験などです。
★★ 教授　山口　拓 博士（体育科学）	研究分野：ライフサイエンス、スポーツ人類学、応用人類学
	研究内容のキーワード：スポーツ国際開発学、民族・伝統スポーツ、東南アジア、質の高い体育、アクターネットワーク理論
	研究領域は多岐にわたりますが、具体的な研究テーマは以下の通りです。 【スポーツの価値を最大化してヒトや社会に役立てる研究】 ①スポーツと開発・援助、②スポーツとSDGs、③スポーツとマイノリティ、④身体運動文化の応用人類学 【スポーツを社会や文化との関わりから理解する研究】 ⑤植民地主義とスポーツ文化、⑥スポーツと観光・祭事、⑦運動部活動の役割・弊害、⑧スポーツと文化変容 研究では、部活動、地域スポーツ、身体運動文化、スポーツプログラムなどを対象に「人はなぜスポーツに関わるのか」「スポーツは人や社会にどのような影響を与えるのか」といった問いを探究し、現場に還元しています。現場のリアルな経験や意味を重視している点に特徴があります。
★★ 准教授　梁 凌詩Nancy 博士（国際関係学）	研究分野：社会学・国際関係学
	研究内容のキーワード：少子高齢化、国際関係、地域開発、ヘルシー・エイジング（健康な高齢化）
	少子高齢化、人口移動、都市開発といった社会構造の変化が、身体文化や健康政策に与える影響について国際比較の視点から研究指導を行います。特に、一帯一路構想やAIIBによるインフラ開発の中で、スポーツを含む教育機関の設立や、地域における社会統合・ソフトパワー戦略としての身体活動の位置づけに注目しています。さらに、ヘルシー・エイジングの観点から高齢者の身体活動や健康支援政策との関連も扱います。社会政策・国際関係・地域開発の文脈で、身体・スポーツ・健康をめぐる社会的課題の変容と可能性を探ることを主な指導領域としています。

（スポーツマネジメントコース）

教員名	研究指導領域
★★ 助教　清宮　孝文 博士（体育科学）	研究分野： スポーツマネジメント 研究内容のキーワード：プロスポーツビジネス、スポーツ産業、スポーツマーケティング プロスポーツチームの経営戦略と、それが地域社会や経済に与える影響について研究しています。特に、観客の意識調査やスポーツボランティアの活動実態を定量的に分析することで、持続可能なスポーツビジネスのモデル構築や、スポーツを核とした地域活性化のメカニズム解明に取り組んでいます。 主な研究テーマは以下の通りです。 ①プロスポーツを核とした地域社会の活性化と価値共創に関する研究 ②データサイエンスを用いたスポーツマーケティングと観客行動の定量分析
★★ 教授　小林　秀紹 博士（学術）	研究分野：スポーツマネジメント、スポーツアナリティクス 研究内容のキーワード：動作分析、戦術分析、機械学習、データマイニング、ベイズ統計 研究内容は主にスポーツアナリティクスです。アナリティクスとは、データを収集・分析し、それを基に意思決定を行うプロセスを指します。動作分析や戦略分析などのコーチングアナリティクスをはじめ、メディアアナリティクス、ビジネスアナリティクスなど、スポーツに関わる多様な現象を対象としています。特に、データドリブン、データを根拠とした意思決定や戦略策定を支援する分析手法の開発について、機械学習やベイズ統計を用いて取り組みます。
★★ 教授　齊藤　隆志 体育学修士	研究分野：スポーツマネジメント 研究内容のキーワード：みるスポーツ、ファシリティマネジメント、イベントマネジメント スポーツマネジメント、スポーツ経営学 ① みるスポーツの研究（スポーツコンテンツプロデュース、観戦サービス、プロスポーツ経営） ② スポーツファシリティマネジメント（スタジアム・アリーナ運営、商業スポーツ施設） ③ スポーツマーケティング（スポーツ消費者行動、スポーツプロダクト、ブランディング）など。
★★ 教授　齋藤　義信 博士(健康マネジメント学)	研究分野：スポーツ・身体活動の疫学、ヘルスプロモーション、健康スポーツマネジメント 研究内容のキーワード：身体活動、疫学、公衆衛生、健康づくり、健康行動理論、エコロジカルモデル、身体活動支援環境、システムズ・アプローチ、普及と実装科学 スポーツや身体活動を通じたヘルスプロモーションを計画・実践・評価・改善し、社会に普及・実装する「健康スポーツマネジメント」について研究します。主な研究テーマは以下の通りです。 ① 安全で効果的なスポーツ・身体活動についての疫学研究 ② 公衆衛生やヘルスプロモーションの観点から、スポーツ・身体活動を普及推進するための研究
★★ 准教授　佐野　昌行 博士（体育科学）	研究分野：スポーツマネジメント 研究内容のキーワード：スポーツのマネジメント、スポーツのマーケティング、スポーツ文化 文化としてのスポーツの推進（普及・振興）を志向し、スポーツ団体、スポーツチーム、大学スポーツ、スポーツイベント、スポーツ企業等におけるスポーツ組織のマネジメント、スポーツ実施者や観戦者のマーケティングなど、スポーツマネジメント領域における幅広い研究テーマを扱います。
★★ 教授　横田　匡俊 教育学修士	研究分野：スポーツマネジメント 研究内容のキーワード：地域活性化、まちづくり、地域経済循環、経済効果、スポーツ産業、スポーツビジネス 研究領域は、主に以下の二つです。 ① スポーツを活かしたまちづくり、地域活性化に関する研究：地域にあるスポーツ資源を活用して、まちづくりや地域活性化をどのように推進するかを研究します。 ② スポーツ産業・スポーツビジネスに関する研究：社会や市場の動向、人々の志向性、政策動向等を分析した上で、スポーツ産業、スポーツビジネスの構造やビジネスモデルについて研究します。

（ハイパフォーマンス科学コース）

教員名	研究指導領域
★★ 准教授　池田　祐介 博士（スポーツ医学）	研究分野： トレーニング科学・スポーツバイオメカニクス
	研究内容のキーワード：トレーニング科学、競技力向上、キネマティクス、キネティクス、パフォーマンス分析、レジスタンストレーニング
	競技パフォーマンスを向上させるためには、競技特性を明らかにした上で、競技に必要となる要素をトレーニングによって戦略的に高めていく必要があります。本研究室では、スポーツバイオメカニクスや運動生理学の研究手法を用いて、競技に必要な技術や体力要素を分析し、得られた知見を基に効果的なトレーニング方法の開発に取り組んでいます。 主な研究テーマは以下の通りです。 ① 自転車競技におけるペダリングパワー向上のためのトレーニング法の開発: 効果的なペダリング技術を研究し、パワー向上に繋がるトレーニング法を提案します。 ② 下肢の関節トルク、パワーが跳躍動作に及ぼす影響: 跳躍動作における関節トルクとパワーの役割を分析し、パフォーマンス向上のためのトレーニング指導を行います。 ③ 競泳のスタート動作に関する研究: スタート動作の技術向上を目指し、最適な動作パターンとトレーニング方法を探求します。 ④ 効果的なレジスタンストレーニング法の開発: 筋力強化とパフォーマンス向上を目指したレジスタンストレーニングの効果的な手法を開発します。 これらの研究を通じて、アスリートの競技力向上に貢献することを目指しています。

教員名	研究指導領域
★★ 教授　大石　健二 博士（体育科学）	研究分野：体育測定評価学、スポーツパフォーマンス分析、教育工学、情報工学
	研究内容のキーワード：スポーツパフォーマンス分析、ゲームパフォーマンス分析、戦術、戦略、統計学、確率論、評価項目（測定項目）の検討と開発、分析方法の検討と開発、ICT教育、STEAM教育、ウェアラブルディバイス、GIGAスクール、DX、子ども、幼児、家庭環境、社会環境、生活習慣、運動習慣、体力、運動能力
	主な研究テーマは、「スポーツパフォーマンス分析・ゲームパフォーマンス分析」、「体育・スポーツにおけるICT利用の効果検証」と「子ども（主に幼児）を対象とした疫学研究」の3 つになります。全研究領域共通として数値データを用い、統計学や確率論を基礎とした研究となります。 ①「スポーツパフォーマンス分析・ゲームパフォーマンス分析」 生体ウェアラブルディバイスや小型ビデオカメラの普及により、選手個人の移動（距離・速度）データや心拍数データに加え、パスやシュート等のスポーツパフォーマンスを簡便に数値化することが可能となりました。そのため、GPS データや画像データを用いスポーツを数値化し、勝敗と関連がある項目の検討や今後の試合予測が研究テーマとなります。これらの研究結果から、対象チームのトレーニング内容（課題）を考えます。現在、研究対象とするスポーツ種目の制限を設けてはいませんが、サッカー、ハンドボール、バレーボール、水球など球技種目を主としています。 ②「体育・スポーツにおけるICT利用の効果検証」 令和6年度からの高等学校 DX 加速化推進事業により、高等学校における体育授業をはじめ部活動でのICT活用が飛躍的に拡大しています。ただ一方では、これまでの体育や部活動の実施方法を踏襲している学校も散見されます。このように、コロナ禍におけるGIGAスクール構想事業によりディバスの普及は全国に及んだが、ICTの利用については学校間や地域間において格差が生じ始めています。そこで、本研究では高等学校 DX 加速化推進事業採択学校と共同し、STEAM教育コンテンツの開発ならびに体育をはじめとする部活動におけるICT活用による効果検証を実施します。これらの研究結果から、新しい体育授業や部活動における指導方法(コーチング方法)の提案をします。 ③「子ども（主に幼児）を対象とした疫学研究」 子どもの体力・運動能力または健康状態と生活習慣や生活環境との関連性について研究します。具体的には、幼児の25m 走、立ち幅とび、テニスボール投げ等の記録や運動の好き・嫌い、風邪や怪我の頻度をアウトカムとし、家庭環境（家族構成・住宅様式等）、生活習慣（起床時刻・習い事等）、施設内環境（保育所や幼稚園・学校間等）、地域間（都市部・農村部等）との関連性について疫学手法を用い検討する研究となります。また、子ども達の日常における身体活動強度や身体活動量を定量化することも研究テーマとしています。現在は、継続測定を実施し体力・運動能力の変化量（率）をアウトカムにした研究を実施しています。これらの研究結果から二極化が懸念されている子ども達の体力・運動能力向上の方策を考えます。
★★ 准教授　大塚　光雄 博士（スポーツ科学）	研究分野：スポーツバイオメカニクス
	研究内容のキーワード：キネマティクス（運動学）、キネティクス（動力学）、競技力向上、運動技能
	科学的なアプローチによって、アスリートにおける競技力向上や運動初心者における運動技能の改善をねらいます。現在、主に以下の2 つのテーマに取り組んでいます。 ① 高度なデバイス（光学式ハイスピードカメラ、地面反力計、慣性センサーなど）を用いた横断的・縦断的なスポーツ動作の測定・評価 ② 大衆化されたデバイス（スマートフォン、スマートウォッチなど）を用いた運動技能の測定・評価方法の開発 フィールドから実験室まで様々な場所で測定を行い、国際大会で優勝する選手から運動嫌いな子どもまで幅広い運動パフォーマンスの分析を行っています。世界中の研究機関とのネットワークを活用しながら、前例にとらわれずに、スポーツ科学、社会に貢献することを目指しています。

教員名	研究指導領域
★★ 教授　岡本　孝信 博士（人間科学）	研究分野：運動生理学、スポーツ生理学 研究内容のキーワード：スポーツパフォーマンス、コンディショニング、トレーニング、競技力向上、リカバリー 運動・スポーツ生理学を基盤として、効果的な運動トレーニング法の開発やアスリートの競技力向上とコンディショニングに資する実践的な研究を行います。スポーツ現場の疑問を科学で解明し、その結果をトレーニングやコンディショニングの実践に還元することを目指します。 主な研究テーマは以下の通りです。 ① 心血管系機能を指標としたコンディショニング法の開発 ② 運動・栄養・休養のタイミングがスポーツパフォーマンスに及ぼす影響 ③ トレーニング効果を高めるポリフェノール摂取法の検討 ④ パフォーマンス向上を目指した機能性食品（クレアチン、グリコーゲンなど）の効果的なローディング法の開発 ⑤ 戦略的リカバリー法の構築
★★ 教授　菊池　直樹 博士（体育科学）	研究分野：トレーニング科学、スポーツ遺伝学 研究内容のキーワード：ストレングス＆コンディショニング、スポーツ遺伝学、遺伝子多型、競技パフォーマンス、筋力トレーニング、高強度インターバルトレーニング、運動と健康 スポーツ遺伝学およびストレングス＆コンディショニングに関わる諸研究を行う。エクササイズによる身体反応や損傷に対するリスクの個人差を解明することで個人対応型のトレーニングおよびコンディショニング方法の確立を目指します。 主な研究テーマは以下のとおりです。 １、エリートアスリートの遺伝特性に関する研究 ２、怪我およびサプリメント摂取の感受性に関する遺伝特性の研究 ３、遺伝子特性を考慮したトレーニング戦略の開発 ４、ストレングストレーニングの効果を最大化するトレーニング変数に関する研究 ５、Velocity based training (VBT)および高強度インターバルトレーニングに関する研究 ６、中高齢者へのトレーニング介入研究
★★ 教授　杉田　正明 博士（学術）	研究分野：トレーニング科学、体力科学 研究内容のキーワード：競技力向上、トレーニング科学、体力科学、コンディショニング、パフォーマンス分析 運動パフォーマンスを高めるトレーニングやコンディショニングに役立つ実践的なスポーツ科学的研究を行っている。 ① スポーツ科学的手法を用いた競技スポーツ選手の競技力向上及び科学的支援に関する研究 ② 競技スポーツ選手を対象としたコンディショニングに関する研究 ③ 体力科学的見地からのトレーニング方法（含・高地トレーニング、低酸素トレーニング）に関する研究 ④ 競技選手のパフォーマンス分析に関する研究

教員名	研究指導領域
★★ 教授　須永　美歌子 博士（医学）	研究分野：運動生理学、トレーニング科学 研究内容のキーワード：月経周期、女性アスリート、コンディショニング、性差、エネルギー代謝（糖代謝、脂質代謝、アミノ酸代謝） 健康なからだを維持しながらパフォーマンスを向上させるためには、戦略的にトレーニングプログラムを構築し、コンディショニング方策を立てる必要があります。本研究室では、ヒトを対象にトレーニングや栄養摂取などの条件の違いが運動パフォーマンスやトレーニング効果に与える影響について運動生理学的手法を用いて分析し、スポーツ現場に還元することを目指して研究に取り組んでいます。 特に性差や月経周期の影響に着目し、以下のような研究を行っています。 ① 月経周期を考慮したコンディショニング法の開発 ② 女性の形態的・生理的特性を考慮したトレーニングプログラムの検討 ③「女性アスリートの三主徴」の予防・改善に関する研究
★★ 准教授　髙井　秀明 博士（体育科学）	研究分野：スポーツ心理学 研究内容のキーワード：競技スポーツ、アスリート、ストレス、情報処理過程、心臓自律神経活動 スポーツ心理学に関する基礎的研究を進めており、ヒトの身体活動に伴う情報処理過程や心臓自律神経活動を中心に検討しています。特に、競技スポーツにおけるストレス状況下でのアスリートの心理・生理的反応について明らかにすることを研究課題としています。
★★ 教授　西山　哲成 博士（医学）	研究分野：トレーニング科学、バイオメカニクス、コーチング科学、ハイパフォーマンスサポート 研究内容のキーワード：パフォーマンス向上、バイオメカニクス、生理学、技術・体力評価、科学サポート、ハイパフォーマンスサポート、コーチング、スポーツ支援システム、自転車競技 ① スポーツパフォーマンスを高めるための技術、体力評価、およびそのトレーニング、コーチング方法に関する研究を扱う。 ② バイオメカニクス、および生理学的手法による科学サポート、指導に役立つ基礎的・実践的研究を対象とする。 ③ 指導またはサポート対象となる集団・個人のパフォーマンス向上を目的として、コーチング、医・科学支援、組織運営等を統合したスポーツ支援システムの構築および実践に関する研究を扱う。
★★ 教授　黄　仁官 博士（体育科学）	研究分野：トレーニング科学、体力学、運動処方 研究内容のキーワード：トレーニング科学、競技力向上サポート、運動処方と運動療法、加齢・老化、スポーツ遺伝子 研究のキーワードは、① アスリートの競技力向上に及ぼす体力の影響、② 高齢者の介護予防を目的とした体力、③ 子どもの発育・発達と体力との関連を柱に調査・測定・評価し、その問題点と改善策について検討します。
★★ 教授　三村　覚 博士（心理学）	研究分野：スポーツ心理学、スポーツ心理臨床、実験心理学 研究内容のキーワード：アスリートへの心理的介入、自律訓練法、催眠技法、生理心理学的指標、エゴグラム スポーツ現場で起こる事象について心理学からのアプローチを試みます。主な領域は以下になります。 ①アスリート・スタッフへの心理支援 ②リラクセーション技法の効果と特徴 ③生理心理学・精神生理学的指標の検討

教員名	研究指導領域
★★ 教授　柳沢　香絵 博士（生活科学）	研究分野：スポーツ栄養学
	研究内容のキーワード：スポーツ栄養学、コンディショニング、競技パフォーマンス向上、ジュニアアスリート
	アスリートの競技パフォーマンスの向上および健康の維持、ならびにスポーツ・運動を安全に行うための栄摂取方法および栄養指導法の開発に資する研究を行う。 1. スポーツ栄養学的手法を用いたアスリートの競技パフォーマンスの向上およびコンディショニングの支援に関する研究 2. ジュニアアスリートを対象とした健全な発育と競技パフォーマンスの向上に資する栄養摂取および指導法に関する研究 3. スポーツ・運動実施時の安全性の確保に資する栄養摂取方法（例：熱中症予防のための食事や水分補給等）に関する研究

（健康スポーツ医科学コース）

教員名	研究指導領域
★★ 准教授　阿藤　聡 博士（スポーツ健康科学）	研究分野：トレーニング科学、運動生理学、骨格筋生理学
	研究内容のキーワード：レジスタンストレーニング、筋肥大、タンパク質代謝、多核体
	運動（筋収縮）による骨格筋の量・機能の可塑性機構、特にレジスタンストレーニング（いわゆる筋トレ）による骨格筋量の改善メカニズムについて分子・細胞レベルで理解することを目指して、実験動物や培養細胞など生物学的実験手法と研究グループで確立した実験動物のレジスタンストレーニングモデルを用いて研究を行っています。また、研究成果をアスリートの競技力向上へ利活用することや、加齢に伴う骨格筋量・機能低下（サルコペニア）の改善方法へ応用するための研究についても展開しています。修士課程では研究に必要な実験技術の習得、研究分野を理解するための論文読解力、データの処理・理解、実験により取得したデータを考察して新規の知見として論文化する為の能力を身に着けることを目指します。
★★ 教授　岡田　隆 博士（体育科学）	研究分野：トレーニング科学、スポーツ整形外科学、アスレティックリハビリテーション
	研究内容のキーワード：筋力トレーニング、筋肥大、筋腱複合体、除脂肪、減量、スポーツ外傷・障害、動的関節制御、腰痛、椎間板変性、リカバリー、睡眠、体幹筋、ボディビル、柔道
	1.トレーニング科学領域 ① 限局的な筋領域に効果的なトレーニング方法の開発 ・領域特異的および長軸区画的な筋活動に関する研究 ・対象筋の筋活動を増強する内部意識集中に関する研究 ・体幹深部筋のトレーニング方法の開発 ② 高い筋出力を可能にする神経生理学的メカニズムの探索 ③ 筋と腱の関係が形態および機能に及ぼす影響に関する研究 ③ 効果的な体脂肪除去方法（除脂肪）の開発 ④ 睡眠と筋力トレーニングおよび除脂肪に関する研究　　など 2.スポーツ整形外科学、アスレティックリハビリテーション領域 ① 腰痛、椎間板変性 ② 主動筋と拮抗筋による関節の動的制御　など

教員名	研究指導領域
★★ 教授　岡本　孝信 博士（人間科学）	研究分野：運動生理学、健康生理学、予防体育学、健康運動学、健康増進学 研究内容のキーワード：サクセスフルエイジング、ウェルビーイング、健康寿命、座位行動、ストレス、動脈硬化、認知症、サルコペニア、ヘルスプロモーション 若年者から高齢者に至る全ての年代が生涯健康であることを目的に、心血管疾患、介護および認知症を総合的に予防する “総合型生活習慣病予防” を目指した研究を推進します。 主な研究テーマは以下の通りです。 ① 総合型生活習慣病予防を目指したレジスタンス運動および有酸素運動法の開発 ② 健康増進効果を高めるポリフェノール摂取法の検討 ③ 骨格筋電気刺激トレーニングの健康増進効果の解明 ④ 筋、呼吸循環および認知機能の改善に向けた健康増進プログラムの開発 ⑤ 体力、呼吸循環および認知機能の加齢変化の関連探索 ⑥ 長時間座位やストレス誘発性動脈機能障害および認知機能低下予防法の開発
★★ 教授　奥田　拓史 博士（医学）	研究分野： スポーツ医学、ゲノム医学 研究内容のキーワード：腎臓内科、遺伝統計学、GWAS、救急医学、医学教育、プライマリケア、Performing Arts Medicine（演奏芸術医学）、相撲、柔道 スポーツという切り口から、音楽を始めとした舞台芸術もスポーツとして捉え、様々な事象の解明を目指します。当たり前と思っていることが、実は科学的に立証されていないことは意外に多いです。当たり前にやっていること、慣例として行われていることに、「なぜだろう」という疑問を持つとが研究の第一歩です。素朴な問いでもいいので、「なぜ」という気持ちを大切にして、研究を進めていきましょう。各位の「なぜ？」を、Research Questionにするところから、始めましょう。新設の研究室のため、遂行中のテーマはありません。だからこそ、あらゆるテーマを研究課題として設定できます。研究指導者が興味をもっている分野は、下記の通りですが、大学院生自身の関心に基づく研究計画の提案も歓迎します。 ①スポーツによる腎機能への影響 ②腎不全患者におけるスポーツ ③スポーツと遺伝 ④音楽を運動という側面から捉えた研究 ⑤舞台芸術や対人競技における緊張について
★★ 准教授　城所　哲宏 博士（教育学）	研究分野：発育発達学、運動疫学、公衆衛生学 研究内容のキーワード：子ども、身体活動、座位活動、体力、生活習慣病、国際共同研究 子どもを対象に、身体活動を通じた体力向上および生活習慣病予防に関する研究をしています。国内および海外における大規模コホート研究のデータを活用し、疫学的な手法を用いて研究を進めています。 主な研究テーマは以下の通りです。 ① 子どもにおける早期生活習慣病予防に関する研究 ② 子どもの身体活動・体力に関する国際共同研究 ③ 身体活動を促進させる環境づくりに関する研究

教員名	研究指導領域
★★ 准教授　鴻﨑　香里奈 博士（体育科学）	研究分野：運動生理学、スポーツ医学、栄養学
	研究内容のキーワード：筋損傷、筋肥大、末梢神経損傷、サルコペニア、神経筋接合部、筋電気刺激、栄養介入、ケトジェニックダイエット、スポーツ損傷、伸張性収縮、肉離れ、がん悪液質筋ジストロフィー、代謝、実験動物
	スポーツ損傷、加齢現象、疾患などの様々な要因が運動器の機能や構造へ及ぼす影響について検証をおこないます。実験動物（ラット・マウス）や培養細胞を用いた基礎研究、およびヒトを対象とした臨床研究の両方に対応可能です。実験動物や培養細胞による研究では、様々な実験手法の習得およびそれらを用いた実験研究を展開します。ヒトを対象とした研究においても、実験や測定に必要な手法の習得およびそれらを用いた介入実験や調査研究を展開します。研究テーマについては事前に相談した上で決定しますが、現在進行中のテーマは下記の通りです。 ・ 短期間の継続的なケトジェニックダイエットが運動器の機能および構造、全身代謝へもたらす影響を検証する ・ 筋ジストロフィーモデルマウスにおける神経・筋機能と構造異常を検証する ・ 運動誘発性筋損傷による神経損傷の作用機序を解明する ・ 培養筋細胞における特定遺伝子の発現変動が筋タンパク質代謝や構造へもたらす影響を検証する ・ がん悪液質モデル動物における神経の機能・構造変化を検証する 研究によって得られる成果は、幅広い年代を対象とした健康増進、およびスポーツ現場へ積極的に応用することを目指します。
★★ 教授　小林　正利 博士（医学）	研究分野：顕微解剖学、健康教育学
	研究内容のキーワード：骨格筋の組織化学、健康教育学、運動と糖、乳酸代謝
	健康維持・増進に関わる因子や環境について探索し検討しています。 ① 骨格筋の再生過程に関わる細胞の組織化学的検討 ② 運動と健康関連機能の検討
★★ 教授　齋藤　義信 博士(健康マネジメント学)	研究分野：スポーツ・身体活動の疫学、ヘルスプロモーション、健康スポーツマネジメント
	研究内容のキーワード：身体活動、疫学、公衆衛生、健康づくり、健康行動理論、エコロジカルモデル、身体活動支援環境、システムズ・アプローチ、普及と実装科学
	スポーツや身体活動を通じたヘルスプロモーションを計画・実践・評価・改善し、社会に普及・実装する「健康スポーツマネジメント」について研究します。主な研究テーマは以下の通りです。 ① 安全で効果的なスポーツ・身体活動についての疫学研究 ② 公衆衛生やヘルスプロモーションの観点から、スポーツ・身体活動を普及推進するための研究
★★ 准教授　三瓶　舞紀子 博士（医学）	研究分野：社会疫学、精神保健、インターコンセプション
	研究内容のキーワード：社会疫学、健康の社会的決定要因、相対的格差、マルチレベル、精神・母子保健、動機づけ面接、インターコンセプション
	家族、地域社会など心理社会的環境がこどもや若年世代の心身の健康に与える影響やメカニズムや介入方法、妊娠前からの若年世代への早期介入の意義等について検討します。また、疫学や統計学の基礎を学びます。 ① 新型コロナウイルス感染症流行による子どもの食生活変化とその社会経済的要因及び行政連携の仕組み解明のための研究 ② 月経/ 基礎体温管理アプリを用いた女性のリプロダクティブヘルスとこころの健康及び社会的リスク要因に関する研究 ③ 娠・周産期に異常があった産後女性の医療従事者からのインターコンセプションケアの認識と健康行動の実態に関する研究 ④ インターコンセプションケアの行動的リスクに関するアプリを用いた教育プログラムの開発

教員名	研究指導領域
★★ 教授　須永　美歌子 博士（医学）	研究分野：運動生理学、トレーニング科学
	研究内容のキーワード：月経周期、女性アスリート、コンディショニング、性差、エネルギー代謝（糖代謝、脂質代謝、アミノ酸代謝）
	健康なからだを維持しながらパフォーマンスを向上させるためには、戦略的にトレーニングプログラムを構築し、コンディショニング方策を立てる必要があります。本研究室では、ヒトを対象にトレーニングや栄養摂取などの条件の違いが運動パフォーマンスやトレーニング効果に与える影響について運動生理学的手法を用いて分析し、スポーツ現場に還元することを目指して研究に取り組んでいます。 特に性差や月経周期の影響に着目し、以下のような研究を行っています。 ① 月経周期を考慮したコンディショニング法の開発 ② 女性の形態的・生理的特性を考慮したトレーニングプログラムの検討 ③「女性アスリートの三主徴」の予防・改善に関する研究
★★ 准教授　田村　優樹 博士（学術）	研究分野：分子運動生理学、分子運動代謝学
	研究内容のキーワード：骨格筋、脂肪、メカノバイオロジー、ミトコンドリア、リソソーム、温熱刺激、サルコペニア、廃用性筋萎縮、トレーニング、リハビリテーション
	効果的なトレーニングやリハビリテーションの創出を見据え、分子生物学の手法を用いた基礎研究を実施しています。現在実施している研究課題は次の通りですが、大学院生自身の関心に基づく研究計画の提案も歓迎します。 ① 運動や不活動、老化、疾患などに伴う「細胞/ 器官/ 個体の適応」と「分子メカニズム」の解明 ② 物理療法の「生物医学的根拠の構築」と「新規適応症の探索」 ③ 新規栄養素材の「探索・有効性検証」と「トレーニング/ リハビリテーションへの応用」
★★ 教授　津山　　薫 博士（体育科学）	研究分野：発育発達
	研究内容のキーワード：子ども、中高齢者、アスリート、運動能力、トレーニング
	① 身体運動や生活習慣が体力に及ぼす影響　② 子どもの体力と運動との関係　③ 中高齢者の体力と運動との関係、などがおもな研究指導領域です。
★★ 教授　中里　浩一 博士（学術）	研究分野：スポーツ生理・生化学、基礎スポーツ医学
	研究内容のキーワード：加齢、筋損傷、筋肥大、筋萎縮、動物・細胞モデル、遺伝子多型、筋タンパク質合成、筋タンパク質分解、細胞外マトリックス
	力学的刺激を含む幅広い外的因子への筋骨格系組織（骨格筋、腱、靭帯など）の生理・生化学的応答あるいは適応を分子・細胞・組織レベルで検討していくことを主なテーマとします。スポーツ生理、トレーニング方法、スポーツ損傷、スポーツ医学など応用的な展開を常に意識して研究を進めていきます。特に分子レベルでの検討を中心とすることおよび自分自身で手を動かしてデータを出してもらうことを求めますので、本研究室を希望する学生は相当の時間と労力を使う覚悟が必要です。その代わり得られるものも十分にあると思います。具体的なテーマは以下のとおりです。 ① 実験モデル（動物・細胞）を用いた筋損傷発生および修復過程の分子メカニズムの解析 ② 実験モデル（動物・細胞）を用いた随意あるいは不随意での筋力トレーニングに対する骨格筋適応の分子メカニズムの解析 ③ 加齢あるいは全身炎症に伴う骨格筋萎縮のメカニズム解明とその克服 ④ ヒト遺伝子構造の多型性が筋骨格系組織に与える影響の基礎的検討

教員名	研究指導領域
★★ 教授　橋本　典生 博士（医学）	研究分野：医学
	研究内容のキーワード：サルコペニア、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、スポーツ喘息、呼吸機能
	慢性閉塞性肺疾患（COPD）の死亡リスク因子は身体活動性の低下でありサルコペニアが関与している。また、サルコペニアを合併することで呼吸困難感も増悪するため、サルコペニア合併に伴う身体活動性の低下や呼吸機能への影響を詳細に検討することが求められている。臨床研究において患者さんより各種パラメーターを測定することで、身体活動や呼吸機能低下の改善につながるリハビリテーションへと応用して行きたいと考えている。また、スポーツ喘息や熱中症予防に関しても興味を持っている。 主な研究内容 ① COPDサルコペニアに対する運動療法の効果 ② 尿中エクソソームを用いたサルコペニアの診断の可能性 ③ 老人施設在住の高齢者の呼吸筋サルコペニアと誤嚥性肺炎の関連 ④ スポーツ喘息と血中のn-3 系多価不飽和脂肪酸やn-6 系多価不飽和脂肪酸の関連 ⑤ 頸部冷却の熱中症予防の可能性

（身体教育・健康教育コース）

教員名	研究指導領域
★ 教授　小泉　和史 博士（海洋科学）	研究分野：野外教育（海洋）、アクアスポーツ
	研究内容のキーワード：スクーバダイビング、水中スポーツ、野外教育
	アクアスポーツや野外活動などが研究領域になります。 指導者、教育者などにとっての疑問点から、現場において必要な以下のような研究課題について検討する。 ① スクーバダイビング、スキンダイビング、スノーケリングにおける教育的効果や指導の研究 ② フィンスイミングにおける分析や指導の研究 ③ 水中スポーツ（水中ラグビー、水中ホッケー、フリーダイビング等）の指導および研究 ④ 野外活動における救急法、救助法指導および危険生物の調査などリスク、クライシスマネージメントの研究 ⑤ 野外活動（海洋や山野のキャンプなど全般）と地球環境問題の研究 ⑥ 水を活用するスポーツ（アクアスポーツ）全般と生命教育の研究など多岐の分野が挙げられる。
★★ 教授　近藤　智靖 博士（体育科学）	研究分野：体育科教育学、スポーツ教育学
	研究内容のキーワード：カリキュラム、体育授業研究、教材・教師
	① 体育科のカリキュラム論 ・体育の教育課程における目標に関する研究 ② 体育科の学習指導論 ・体育の教材に関する研究 ・教師行動に関する研究 ③ 体育授業研究 ・体育における学習成果に関する研究 ・児童生徒行動に関する研究
★★ 教授　鹿野　晶子 博士（体育科学）	研究分野：学校保健学、発育発達学
	研究内容のキーワード：子どものからだと心、養護教諭
	子どものからだと心、それを支える養護教諭をテーマとし、日常的には、子どものからだと心に関する学校教育現場等での野外調査に従事しながら研究をすすめている。 主な研究領域は　① 養護教諭の職務と養護活動、保健室の機能　② 学校保健　③ 子どものからだと心の健康課題全般とする。

教員名	研究指導領域
★★ 教授　白旗　和也 博士（ｽﾎﾟｰﾂ健康科学）	研究分野：スポーツ教育学、教師教育学 研究内容のキーワード：学習指導要領に基づく体育科・保健体育科の授業づくり、教師の効力感を高めるためのコンサルテーション、幼児期・児童期における動きの獲得、開発途上国における体育支援 学習指導要領に基づき、すべての児童生徒に豊かなスポーツライフを実現するための方策について、幼児、児童、生徒の立場から、または教師の立場から学校現場の実情に応じた研究を推進する。 ① 学習指導要領に基づいたカリキュラム論、学習指導論 ② 教師効力感に基づいた教師教育論、コンサルテーション方略 ③ 幼児期運動指針に基づいた幼児の運動遊びと動きの獲得 ④ 開発途上国における体育支援の方法
★★ 教授　鈴川　一宏 博士（医学） 博士（体育科学）	研究分野：ヘルスプロモーション、公衆衛生学 研究内容のキーワード：子ども、生活習慣、運動習慣、行動体力、防衛体力、免疫、疲労、メンタルヘルス、ヘルスプロモーション、健康教育、学校保健 保健体育教諭や養護教諭が取り組むべき、子ども（児童生徒）における規則正しい生活習慣、体育・スポーツや運動習慣の必要性、学校現場における保健活動、ヘルスプロモーションに関する研究等を研究指導領域とします。そのため、児童生徒を対象として、生活習慣や運動習慣、防衛体力（健康感、免疫能、メンタルヘルスなど）について調査を行い、以下について研究を行っていきます。 ① 児童生徒の生活習慣、運動習慣に関する研究 ② 児童生徒の行動体力と防衛体力に関する研究 ③ 児童生徒の健康管理・健康教育・健康対策に関する研究 ④ 児童生徒のストレスや疲労に関する研究 ⑤ 学校保健とヘルスプロモーションに関する研究 ⑥ 児童生徒と教員のメンタルヘルスに関する研究 ⑦ スポーツ・運動部活動と防衛体力に関する研究
★★ 准教授　鈴木　康介 博士（スポーツ科学）	研究分野：体育科教育学、スポーツ教育学 研究内容のキーワード：体育科教育学、スポーツ教育学、教材開発、運動指導 （1） 体育科の学習指導に関する研究 ① 体育の授業づくり、教材づくり、教材構成に関する研究 ② 体育における運動指導に関する研究 ③学校における教科横断的な学びに関する研究 （2） 幼少期における運動指導に関する研究 ①幼少期の子どもの動きに関する研究 ② 教育課程内・課程外における子ども（幼児・児童・生徒）の運動指導に関する研究
★★ 助教　田中　良 博士（体育科学）	研究分野：教育保健学、学校保健学、発育発達学 研究内容のキーワード：子どもの健康、生活習慣、健康教育 子どもの健康や生活習慣、生活環境の実態を把握しながら、子どもの健康に関連する学校環境や健康教育について研究活動を進めている。 主に、① 子どもの生活習慣と健康との関連、② 子どもの健康を改善する学校・教室環境、③ 中高生の健康行動と関わる健康教育 等をテーマとしている。

教員名	研究指導領域
★ 教授　津田　博子 体育学修士	研究分野：舞踊学・舞踊教育学 研究内容のキーワード：舞踊・教育・ダンス教材・イメージ・伝統芸能舞踊の歴史 舞踊に関する教育学的研究 身体表現系方法学的研究 身体表現やダンスを用いた教育学的活動の効果に関する研究 比較舞踊の研究　等
★★ 准教授　寺岡　英晋 博士（教育学）	研究分野：スポーツ教育学 研究内容のキーワード：カリキュラム、教師行動、学習成果、評価、教師教育、国際協力、卓球 学校体育・スポーツ活動が多様な教育課題の解決にどのように貢献できるかを探求することを主なテーマとしています。具体的には、以下のようなテーマが研究指導領域になります。 ①教師行動の測定と評価 ②児童生徒の社会・情意領域の学習成果を生み出すメカニズムの解明 ③教師の資質向上を図る教育プログラムの開発と評価 ④カリキュラム分析と国際比較 ⑤ 体育・スポーツを通じた国際協力に関わる研究 上記以外でも、教育学的研究で関連するキーワードに該当するテーマも歓迎します。
★★ 教授　野井　真吾 博士（体育科学）	研究分野：教育生理学、学校保健学、発育発達学、体育学 研究内容のキーワード：教育生理学、学校保健学、発育発達学、体育学、子どものからだ、子どもの体力、子どもの健康 キーワードは、「子ども」「からだ」「心」「体力」「健康」「元気」「生活」。 研究領域は、教育生理学、学校保健学、発育発達学、体育学。具体的には、子どものからだ、心、体力、健康、元気、生活が「どこかおかしい」、「ちょっと気になる」、「なんか心配」といった保育・教育現場の教諭や養護教諭、さらには、子育て中のお母さん、お父さんの“実感”をたよりに、子どものからだにこだわってその“事実”を明らかにし、“実体”を追究する活動（問題を発見するための研究）と、発見された健康課題を改善し、子どもの元気を具現化するための活動（問題を解決するための研究）とに努めている。
体育科学学位プログラム　★ 体育実践学学位プログラム ★★ 教授　三宅　良輔 博士（医学）	研究分野：複合領域 研究内容のキーワード：体操、体つくり運動、健康運動、運動指導論、成年・老年期の体育 健康づくりを目的とした「体操」の実践的な研究活動を行う。子どもから高齢者までを対象に、それぞれの年齢、体力、健康状態に合わせた健康運動を研究する。 ① 幼児の運動あそび、親子体操の研究 ② 学校体育における「体つくり運動」、「集団演技」に関する教材研究 ③ 成年・老年期の健康づくりのための「体操」に関する研究 ④ 体操指導に関する研究

教員名	研究指導領域
★★ 准教授　村井　敬太郎 博士（体育科学）	研究分野： 特別支援教育学，知的障害教育学，体育学
	研究内容のキーワード：知的障害，特別支援学校（知的障害），体育科，保健体育科の授業，子どもの運動支援，教員・支援員支援
	特別支援学校（知的障害）や児童発達支援の先生方と協働し，主に学校等の現場において特別支援学校（知的障害）における体育科，保健体育科の授業づくりや児童発達支援における子どもの運動遊びに関する実践研究に取り組んでいます．主な研究領域は次の通りです． 1.特別支援学校（知的障害）体育科，保健体育科の学習支援に関する研究 1)体育科，保健体育科の授業づくり、教材づくり、教員支援等に関する研究 2)体育科，保健体育科等における子どもへの運動支援に関する研究 3)特別支援学校（知的障害）における体育科，保健体育科の教育課程に関する研究 2.知的障害のある子ども（主に幼少児）への運動支援に関する研究 1)知的障害のある子ども（主に幼少児）の体の動きの向上に関する実践研究 2)知的障害のある子ども（主に幼少児）の日常生活動作支援に関する実践研究

■コーチング科学学位プログラム、コーチング実践学位プログラム

教員名	研究指導領域
★★ 教授　青柳　　徹 修士（体育学）	研究分野：コーチング学、トレーニング科学
	研究内容のキーワード：心・技・体
	コーチング・トレーニング・運動学習とパフォーマンスに関する研究 本研究室では、競技力の向上を目的としたトレーニングの体系化および幅広い知識を基に指導を行う実践的な指導者の育成を狙いとする。そして、競技（運動）パフォーマンスはヒトの学習によって生じることを理解して心理学・生理学・バイオメカニクス的な手法を用いた実践的研究を行う。
★★ 教授　伊藤　雅充 博士（学術）	研究分野：コーチング学、コーチ教育
	研究内容のキーワード：アスリートセンタードコーチング、コーチ教育、コーチデベロッパー
	アスリート・センタード・コーチングをキーワードとして学習者中心の指導のあり方を研究する。研究テーマはコーチングのWHAT（アスリートの競技力向上等）ではなく、コーチングのHOWである。研究手法として質的研究および量的研究、あるいはその両方を組み合わせた混合研究法を採用する。コーチングスキルの向上を目指すコーチは、アクションリサーチを実施することを勧める。
★★ 准教授　岩原　文彦 博士（体育科学）	研究分野：コーチング学
	研究内容のキーワード：コーチング、コーチングスタッフ教育、ハイパフォーマンスコーチング
	より効果的なコーチングを行うための考え方、パフォーマンス分析等によって得られた科学的データの解釈および活用、トレーニングメニューや年間スケジュールの作成および評価等を中心に検討を行っていきます。学際的な観点からコーチング学を捉え実践的に研究を進めます。

教員名	研究指導領域
★★ 教授　大石　健二 博士（体育科学）	研究分野：体育測定評価学、スポーツパフォーマンス分析、教育工学、情報工学 研究内容のキーワード：スポーツパフォーマンス分析、ゲームパフォーマンス分析、戦術、戦略、統計学、確率論、評価項目（測定項目）の検討と開発、分析方法の検討と開発、ICT教育、STEAM教育、ウェアラブルディバイス、GIGAスクール、DX 主な研究テーマは、「スポーツパフォーマンス分析・ゲームパフォーマンス分析」と「体育・スポーツにおけるICT利用の効果検証」の2 つになります。両研究領域共通として数値データを用い、統計学や確率論を基礎とした研究となります。 ①「スポーツパフォーマンス分析・ゲームパフォーマンス分析」 生体ウェアラブルディバイスや小型ビデオカメラの普及により、選手個人の移動（距離・速度）データや心拍数データに加え、パスやシュート等のスポーツパフォーマンスを簡便に数値化することが可能となりました。そのため、GPS データや画像データを用いスポーツを数値化し、勝敗と関連がある項目の検討や今後の試合予測が研究テーマとなります。これらの研究結果から、対象チームのトレーニング内容（課題）を考えます。現在、研究対象とするスポーツ種目の制限を設けてはいませんが、サッカー、ハンドボール、バレーボール、水球など球技種目を主としています。 ②「体育・スポーツにおけるICT利用の効果検証」 令和6年度からの高等学校 DX 加速化推進事業により、高等学校における体育授業をはじめ部活動でのICT活用が飛躍的に拡大しています。ただ一方では、これまでの体育や部活動の実施方法を踏襲している学校も散見されます。このように、コロナ禍におけるGIGAスクール構想事業によりディバスの普及は全国に及んだが、ICTの利用については学校間や地域間において格差が生じ始めています。そこで、本研究では高等学校 DX 加速化推進事業採択学校と共同し、STEAM教育コンテンツの開発ならびに体育をはじめとする部活動におけるICT活用による効果検証を実施します。これらの研究結果から、新しい体育授業や部活動における指導方法(コーチング方法)の提案をします。
★★ 教授　大本　洋嗣 修士（体育学）	研究分野：コーチング学 研究内容のキーワード：水球、水泳、コーチング アスリートの競技力向上のためにコーチが果たすべき役割についての研究を行う。日々変化する新しいコーチング手法について、競技スポーツ現場において実践的なアプローチと評価を行い理想のコーチングを探る。
★★ 教授　小嶋　新太 博士（医学）	研究分野：コーチング学、コーチ教育 研究内容のキーワード：格闘技、柔道、コーチング ・柔道競技における効果的な指導法に関する研究 ・競技力向上を目的としたトレーニング方法に関する研究 ・選手のコンディショニングおよび心理サポートに関する研究
コーチング科学学位プログラム ★ コーチング実践学学位プログラム ★★ 准教授　小林　史明 修士（体育科学）	研究分野：陸上競技 研究内容のキーワード：陸上競技、棒高跳、バイオメカニクス 陸上競技に関わるコーチングおよび競技力向上への体力的、技術的なトレーニング方法の検討、実践研究。
★★ 教授　齋藤　一雄 博士（医学）	研究分野：複合領域 研究内容のキーワード：技力向上（相撲）、身体組成、筋力 対人競技に関わるコーチングおよび競技力向上への体力的、技術的、心理的なトレーニング方法の検討、実践研究。

教員名	研究指導領域
★★ 准教授　佐良土　茂樹 博士（哲学）	研究分野：コーチング学
	研究内容のキーワード：コーチング学原論、コーチング哲学、コーチ育成、バスケットボール、マインドスポーツ（将棋）
	コーチングはそもそもどのような営みであるのかを考える原論の研究、コーチが持っている哲学についての研究、および、コーチの学びを中心とするコーチ育成やその学びを支援するコーチデベロッパーについての研究を行っています。また、近年はコーチングに関わる概念、さまざまな思想に基づいたコーチングのあり方、コーチの生き方についても研究を進めています。基本的にスポーツ全般を研究対象としていますが、特にバスケットボールに関する研究を専門としています。
（コーチング科学学位プログラムのみ） ★★ 教授　杉田　正明 博士（学術）	研究分野：コーチング学、トレーニング科学
	研究内容のキーワード：スポーツ科学を活用したコーチング、トレーニング科学、体力科学、コンディショニング、パフォーマンス分析
	運動パフォーマンスを高めるコーチング、トレーニングに役立つ実践的なスポーツ科学的研究を行っている。 競技力向上に導くコーチングに関するトレーニングやコンディショニングの面や様々な競技選手のパフォーマンス分析や調査を行っている。
★★ 准教授　髙井　秀明 博士（体育科学）	研究分野：スポーツ心理学
	研究内容のキーワード：スポーツメンタルトレーニング、スポーツカウンセリング、リラクセーション
	アスリートの競技力向上や実力発揮を目指した、スポーツメンタルトレーニングとスポーツカウンセリングに関する実践的研究に取り組んでいます。特に、ストレスの対処方略として活用されている自律訓練法や漸進的弛緩法、バイオフィードバック法などのリラクセーション技法の効果について検討しています。
★★ 教授　南部　さおり 博士（医学）	研究分野： 医学、法学、心理学、社会学、社会科学複合分野
	研究内容のキーワード：児童虐待、体罰、部活動の安全指導、学校事故、少年非行
	スポーツ危機管理学 スポーツにおける安全指導、スポーツ事故の原因分析と再発防止、体罰・パワハラ・暴言指導に関する研究、学校部活動のあり方に関する研究、学校体育における苦手克服・楽しい体育・安全指導、スポーツ指導者の資質向上、スポーツ活動が少年非行と犯罪に及ぼす影響など学校安全に関する研究 いじめ、ブラック部活動、教員の不適切指導、教育現場でのハラスメント、対教師暴力、不登校問題など 児童虐待、親子関係が子の社会化に及ぼす影響に関する研究
★★ 教授　西山　哲成 博士（医学）	研究分野：トレーニング科学、バイオメカニクス、コーチング科学、ハイパフォーマンスサポート
	研究内容のキーワード：パフォーマンス向上、バイオメカニクス、生理学、技術・体力評価、科学サポート、ハイパフォーマンスサポート、コーチング、スポーツ支援システム、自転車競技
	① スポーツパフォーマンスを高めるための技術、体力評価、およびそのトレーニング、コーチング方法に関する研究を扱う。 ② バイオメカニクス、および生理学的手法による科学サポート、指導に役立つ基礎的・実践的研究を対象とする。 ③ 指導またはサポート対象となる集団・個人のパフォーマンス向上を目的として、コーチング、医・科学支援、組織運営等を統合したスポーツ支援システムの構築および実践に関する研究を扱う。

教員名	研究指導領域
コーチング科学学位プログラム ★ コーチング実践学学位プログラム ★★ 教授　根本　研 修士（体育科学）	研究分野： コーチング学、コーチ教育 研究内容のキーワード：コーチング学、チームビルディング、パフォーマンス分析 より効果的なコーチング実践を探求し、現場で創出した事象を対象にしたコーチングの研究を行う。競技力向上の課題に対して、実際のゲームでのパフォーマンス発揮を考えた実践的な研究課題を見つけ出し、現場に有益なパフォーマンス向上の為のプロセスに向き合い研究を進めていく。 ＜研究課題＞ ① コーチ育成に関する研究 ② チーム文化形成に関する研究 ③ チームビルディングに関する研究 ④ 戦略・戦術に関する実践研究
★ 教授　畠田　好章 修士（体育学）	研究分野：複合領域 研究内容のキーワード：器械運動、体操競技、競技力向上 体操競技における競技力向上のための技術的分析や実践的なコーチング、トレーニング方法について研究を進める
★ 教授　松本　慎吾 修士（体育科学）	研究分野：複合領域 研究内容のキーワード：レスリング、コーチング、減量、トレーニング ・レスリング競技者の体力特性・筋力に関する研究・コンディショニング・メディカルチェック ・減量（急速減量）と生理機能への影響・遺伝子多型・バイオマーカーと競技特性 ・スポーツ栄養教育・オリンピックの歴史
コーチング科学学位プログラム ★ コーチング実践学学位プログラム ★★ 教授　三宅　良輔 博士（医学）	研究分野：複合領域 研究内容のキーワード：体操、体つくり運動、健康運動、運動指導論、成年・老年期の体育 健康づくりを目的とした「体操」の実践的な研究活動を行う。子どもから高齢者までを対象に、それぞれの年齢、体力、健康状態に合わせた健康運動を研究する。 ① 幼児の運動あそび、親子体操の研究 ② 学校体育における「体つくり運動」、「集団演技」に関する教材研究 ③ 成年・老年期の健康づくりのための「体操」に関する研究 ④ 体操指導に関する研究

［博士前期課程］研究指導教員一覧表(研究指導補助教員を含む)

(教員資格欄) 指導－研究指導教員、(補助)－研究指導補助教員　　市街局番：　東京(03)　横浜(045)

	教員資格	氏名	フリガナ	所属学位プログラム	東京・世田谷キャンパス電話番号	横浜・健志台キャンパス電話番号	メールアドレス
あ	指導	青柳　徹	ｱｵﾔﾅｷﾞ ﾄｵﾙ	コーチング科学学位プログラム コーチング実践学学位プログラム		479-6938	aoyanagi@nittai.ac.jp
	指導	阿藤　聡	ｱﾄｳ ｻﾄﾙ	体育科学学位プログラム（健康スポーツ医科学コース）		507-7829	ato.s@nittai.ac.jp
	指導	池田　祐介	ｲｹﾀﾞ ﾕｳｽｹ	体育科学学位プログラム（ハイパフォーマンス科学コース）		963-7946	yusuke-ikeda@nittai.ac.jp
	指導	伊藤　雅充	ｲﾄｳ ﾏｻﾐﾂ	コーチング科学学位プログラム コーチング実践学学位プログラム	5706-0995		itom@nittai.ac.jp
	指導	岩原　文彦	ｲﾜﾊﾗ ﾌﾐﾋｺ	コーチング科学学位プログラム コーチング実践学学位プログラム	5706-0937		iwahara@nittai.ac.jp
	指導	大石　健二	ｵｵｲｼ ｹﾝｼﾞ	体育科学学位プログラム（ハイパフォーマンス科学コース） コーチング科学学位プログラム コーチング実践学学位プログラム	5706-1096		oishi@nittai.ac.jp
	指導	大塚　光雄	ｵｵﾂｶ ﾐﾂｵ	体育科学学位プログラム（ハイパフォーマンス科学コース）		479-7115	otsuka.m@nittai.ac.jp
	指導	大本　洋嗣	ｵｵﾓﾄ ﾖｳｼﾞ	コーチング科学学位プログラム コーチング実践学学位プログラム	5706-0987	530-5892	omoto@nittai.ac.jp
	指導	岡田　隆	ｵｶﾀﾞ ﾀｶｼ	体育科学学位プログラム（健康スポーツ医科学コース）	5706-1024		t-okada@nittai.ac.jp
	指導	岡本　孝信	ｵｶﾓﾄ ﾀｶﾉﾌﾞ	体育科学学位プログラム（ハイパフォーマンス科学コース） 体育科学学位プログラム（健康スポーツ医科学コース）	5706-0966		tokamoto@nittai.ac.jp
	指導	荻　浩三	ｵｷﾞ ｺｳｿﾞｳ	体育科学学位プログラム（体育スポーツ文化社会学コース）	5706-1213		k-ogi@nittai.ac.jp
	指導	奥田　拓史	ｵｸﾀﾞ ﾋﾛｼ	体育科学学位プログラム（健康スポーツ医科学コース）	5706-0991		h.okuda@nittai.ac.jp
か	指導	金田　英子	ｶﾈﾀﾞ ｴｲｺ	体育科学学位プログラム（スポーツ国際コース）	5706-0988		e-kaneda@nittai.ac.jp
	指導	菊池　直樹	ｷｸﾁ ﾅｵｷ	体育科学学位プログラム（ハイパフォーマンス科学コース）		530-5861	n.kikuchi@nittai.ac.jp
	指導	城所　哲宏	ｷﾄﾞｺﾛ ﾃﾂﾋﾛ	体育科学学位プログラム（健康スポーツ医科学コース）	5706-1426		kidokoro@nittai.ac.jp
	指導	清宮　孝文	ｷﾖﾐﾔ ﾀｶﾌﾐ	体育科学学位プログラム（スポーツマネジメントコース） 体育実践学学位プログラム（スポーツマネジメントコース）		479-6471	t-kiyomiya@nittai.ac.jp
	(補助)	小泉　和史	ｺｲｽﾞﾐ ｶｽﾞｼ	体育科学学位プログラム（身体教育・健康教育コース） 体育実践学学位プログラム（身体教育・健康教育コース）		479-6986	koizumi-k@nittai.ac.jp
	指導	鴻崎　香里奈	ｺｳｻﾞｷ ｶﾘﾅ	体育科学学位プログラム（健康スポーツ医科学コース）		507-7820	kouzaki@nittai.ac.jp
	指導	小嶋　新太	ｺｼﾞﾏ ｱﾗﾀ	コーチング科学学位プログラム コーチング実践学学位プログラム	5706-1037		kojimajudo@nittai.ac.jp
	指導	小林　秀紹	ｺﾊﾞﾔｼ ﾋﾃﾞﾂｸﾞ	体育科学学位プログラム（スポーツマネジメントコース） 体育実践学学位プログラム（スポーツマネジメントコース）		479-7505	h-kobayashi@nittai.ac.jp
	(補助)	小林　史明	ｺﾊﾞﾔｼ ﾌﾐｱｷ	コーチング科学学位プログラム		963-7924	kobayashi@nittai.ac.jp
	指導			コーチング実践学学位プログラム			
	指導	小林　正利	ｺﾊﾞﾔｼ ﾏｻﾄｼ	体育科学学位プログラム（健康スポーツ医科学コース）	5706-1251		m-kobayashi@nittai.ac.jp
	指導	近藤　智靖	ｺﾝﾄﾞｳ ﾄﾓﾔｽ	体育科学学位プログラム（身体教育・健康教育コース） 体育実践学学位プログラム（身体教育・健康教育コース）	5706-1337		kondohtomoyasu@nittai.ac.jp
さ	指導	齋藤　一雄	ｻｲﾄｳ ｶｽﾞｵ	コーチング科学学位プログラム コーチング実践学学位プログラム	5706-1246		ksaito@nittai.ac.jp
	指導	齊藤　隆志	ｻｲﾄｳ ﾀｶｼ	体育科学学位プログラム（スポーツマネジメントコース） 体育実践学学位プログラム（スポーツマネジメントコース）		479-7385	tsaito@nittai.ac.jp
	指導	齋藤　義信	ｻｲﾄｳ ﾖｼﾉﾌﾞ	体育科学学位プログラム（スポーツマネジメントコース） 体育実践学学位プログラム（スポーツマネジメントコース） 体育科学学位プログラム（健康スポーツ医科学コース）		479-6516	ysaito@nittai.ac.jp
	指導	佐野　昌行	ｻﾉ ﾏｻﾕｷ	体育科学学位プログラム（スポーツマネジメントコース） 体育実践学学位プログラム（スポーツマネジメントコース）		479-7596	msano@nittai.ac.jp

［博士前期課程］研究指導教員一覧表(研究指導補助教員を含む)

(教員資格欄)指導－研究指導教員、(補助)－研究指導補助教員　　市街局番：　東京(03)　横浜(045)

	教員資格	氏名	フリガナ	所属学位プログラム	東京・世田谷キャンパス電話番号	横浜・健志台キャンパス電話番号	メールアドレス
	指導	佐良土　茂樹	ｻﾛｳﾄﾞ ｼｹﾞｷ	コーチング科学学位プログラム コーチング実践学学位プログラム	5706-0943		sarodo@nittai.ac.jp
	指導	三瓶　舞紀子	ｻﾝﾍﾟｲ ﾏｷｺ	体育科学学位プログラム（健康スポーツ医科学コース）	5706-0916		sampei@nittai.ac.jp
	指導	鹿野　晶子	ｼｶﾉ ｱｷｺ	体育科学学位プログラム（身体教育・健康教育コース） 体育実践学学位プログラム（身体教育・健康教育コース）	5706-0950		shikano.a@nittai.ac.jp
	指導	白旗　和也	ｼﾗﾊﾀ ｶｽﾞﾔ	体育科学学位プログラム（身体教育・健康教育コース） 体育実践学学位プログラム（身体教育・健康教育コース）	5706-1495		shirahata@nittai.ac.jp
	指導	杉田　正明	ｽｷﾞﾀ ﾏｻｱｷ	体育科学学位プログラム（ハイパフォーマンス科学コース） コーチング科学学位プログラム	5706-1148		m-sugita@nittai.ac.jp
	指導	鈴川　一宏	ｽｽﾞｶﾜ ｶｽﾞﾋﾛ	体育科学学位プログラム（身体教育・健康教育コース） 体育実践学学位プログラム（身体教育・健康教育コース）	5706-0972		suzukawa@nittai.ac.jp
	指導	鈴木　康介	ｽｽﾞｷ ｺｳｽｹ	体育科学学位プログラム（身体教育・健康教育コース） 体育実践学学位プログラム（身体教育・健康教育コース）	5706-0960		suzuki-kosuke@nittai.ac.jp
	指導	須永　美歌子	ｽﾅｶﾞ ﾐｶｺ	体育科学学位プログラム（ハイパフォーマンス科学コース） 体育科学学位プログラム（健康スポーツ医科学コース）	5706-1360		sunaga@nittai.ac.jp
	指導	関根　正美	ｾｷﾈ ﾏｻﾐ	体育科学学位プログラム（体育スポーツ文化社会学コース）	5706-0935		msekine@nittai.ac.jp
た	指導	髙井　秀明	ﾀｶｲ ﾋﾃﾞｱｷ	体育科学学位プログラム（ハイパフォーマンス科学コース） コーチング科学学位プログラム コーチング実践学学位プログラム	5706-0863		takai@nittai.ac.jp
	指導	田中　良	ﾀﾅｶ ﾘｮｳ	体育科学学位プログラム（身体教育・健康教育コース） 体育実践学学位プログラム（身体教育・健康教育コース）	5706-0805		r-tanaka@nittai.ac.jp
	指導	谷釜　尋徳	ﾀﾆｶﾞﾏ ﾋﾛﾉﾘ	体育科学学位プログラム（体育スポーツ文化社会学コース）	5706-0982		tanigama.h@nittai.ac.jp
	指導	田村　優樹	ﾀﾑﾗ ﾕｳｷ	体育科学学位プログラム（健康スポーツ医科学コース）	5706-0933		y-tamura@nittai.ac.jp
	(補助)	津田　博子	ﾂﾀﾞ ﾋﾛｺ	体育科学学位プログラム（身体教育・健康教育コース） 体育実践学学位プログラム（身体教育・健康教育コース）	5706-0934	963-7921	tsuda@nittai.ac.jp
	指導	津山　薫	ﾂﾔﾏ ｶｵﾙ	体育科学学位プログラム（健康スポーツ医科学コース）		963-7939	tsuyamak@nittai.ac.jp
	指導	寺岡　英晋	ﾃﾗｵｶ ｴｲｼﾝ	体育科学学位プログラム（スポーツ国際コース） 体育科学学位プログラム（身体教育・健康教育コース） 体育実践学学位プログラム（身体教育・健康教育コース）	5706-0975		eishin.teraoka@nittai.ac.jp
な	指導	中里　浩一	ﾅｶｻﾞﾄ ｺｳｲﾁ	体育科学学位プログラム（健康スポーツ医科学コース）	5706-0821	507-1644	nakazato@nittai.ac.jp
	指導	南部　さおり	ﾅﾝﾌﾞ ｻｵﾘ	コーチング科学学位プログラム コーチング実践学学位プログラム	5706-0945		nambu3@nittai.ac.jp
	指導	西山　哲成	ﾆｼﾔﾏ ﾃﾂﾅﾘ	体育科学学位プログラム（ハイパフォーマンス科学コース） コーチング科学学位プログラム コーチング実践学学位プログラム		963-7994	nishiyama@nittai.ac.jp
	(補助)	根本　研	ﾈﾓﾄ ｹﾝ	コーチング科学学位プログラム	5706-0928		nemoto@nittai.ac.jp
	指導			コーチング実践学学位プログラム			
	指導	野井　真吾	ﾉｲ ｼﾝｺﾞ	体育科学学位プログラム（身体教育・健康教育コース） 体育実践学学位プログラム（身体教育・健康教育コース）	5706-1543		nois@nittai.ac.jp
は	指導	橋本　典生	ﾊｼﾓﾄ ﾐﾂｵ	体育科学学位プログラム（健康スポーツ医科学コース）	5706-0862		mitsuo-hashimoto@nittai.ac.jp
	(補助)	畠田　好章	ﾊﾀｹﾀﾞ ﾖｼｱｷ	コーチング科学学位プログラム コーチング実践学学位プログラム	5706-1036	963-7923	hatakeda@nittai.ac.jp
	指導	波多腰　克晃	ﾊﾀｺｼ ｶﾂｱｷ	体育科学学位プログラム（体育スポーツ文化社会学コース）	5706-1473		hatakoshi@nittai.ac.jp
	指導	黄　仁官	ﾌｧﾝ ｲﾝｶﾝ	体育科学学位プログラム（ハイパフォーマンス科学コース）		963-7943	hwang@nittai.ac.jp
	指導	福井　元	ﾌｸｲ ｹﾞﾝ	体育科学学位プログラム（スポーツ国際コース）	5706-1274		fukui@nittai.ac.jp
ま	指導	松浪　登久馬	ﾏﾂﾅﾐ ﾄｸﾏ	体育科学学位プログラム（スポーツ国際コース）	5706-0936		tokuma.matsunami@nittai.ac.jp

［博士前期課程］研究指導教員一覧表(研究指導補助教員を含む)

（教員資格欄）指導－研究指導教員、(補助)－研究指導補助教員　　市街局番：　東京(03)　横浜(045)

	教員資格	氏名	フリガナ	所属学位プログラム	東京・世田谷キャンパス電話番号	横浜・健志台キャンパス電話番号	メールアドレス
	(補助)	松本　慎吾	ﾏﾂﾓﾄ ｼﾝｺﾞ	コーチング科学学位プログラム コーチング実践学学位プログラム		530-0594	matsumoto-s@nittai.ac.jp
	指導	三村　覚	ﾐﾑﾗ ｻﾄﾙ	体育科学学位プログラム（ハイパフォーマンス科学コース）		963-7950	mimura@nittai.ac.jp
	(補助)	三宅　良輔	ﾐﾔｹ ﾘｮｳｽｹ	体育科学学位プログラム（身体教育・健康教育コース） コーチング科学学位プログラム		963-7997	miyake@nittai.ac.jp
	指導			体育実践学学位プログラム（身体教育・健康教育コース） コーチング実践学学位プログラム			
	指導	村井　敬太郎	ﾑﾗｲ ｹｲﾀﾛｳ	体育科学学位プログラム（身体教育・健康教育コース） 体育実践学学位プログラム（身体教育・健康教育コース）		963-7938	kmurai@nittai.ac.jp
や	指導	柳沢　香絵	ﾔﾅｷﾞｻﾜ ｶｴ	体育科学学位プログラム（ハイパフォーマンス科学コース）	5706-1479		yanagisawa.k@nittai.ac.jp
	指導	山口　和之	ﾔﾏｸﾞﾁ ｶｽﾞﾕｷ	体育科学学位プログラム（スポーツ国際コース）	5706-0930		kazuyamaguchi@nittai.ac.jp
	指導	山口　拓	ﾔﾏｸﾞﾁ ﾀｸ	体育科学学位プログラム（スポーツ国際コース）	5706-0970		yamaguchi.taku@nittai.ac.jp
	指導	横田　匡俊	ﾖｺﾀ ﾏｻﾄｼ	体育科学学位プログラム（スポーツマネジメントコース） 体育実践学学位プログラム（スポーツマネジメントコース）		479-7696	m-yokota@nittai.ac.jp
	指導	依田　充代	ﾖﾀﾞ ﾐﾂﾖ	体育科学学位プログラム（体育スポーツ文化社会学コース）	5706-0944	479-8186	3.yoda@nittai.ac.jp
ら	指導	梁　凌詩Nancy	ﾘｮｳ ﾘｮｳｼﾅﾝｼｰ	体育科学学位プログラム（スポーツ国際コース）	5706-1034		leung@nittai.ac.jp

Web出願サイトによる登録だけでは出願完了となりません。必ず支払期限までに入学検定料を支払い、必要書類提出期限までに特定記録・速達郵便にて送付してください。必要書類が本学で受理された時点で出願完了となります。必要書類提出期限までに届かない必要書類はいかなる理由でも受け付けません。

Web出願の流れ

入学検定料支払い前であれば、正しい出願内容で再登録することで、実質的な修正が可能です。

出願完了までの流れは、以下の通りです

STEP 1 事前準備 → STEP 2 出願サイトにアクセス → STEP 3 マイページの登録 → STEP 4 出願内容の登録 → STEP 5 入学検定料の支払い → STEP 6 必要書類の郵送 → STEP 7 出願完了 → 受験票の印刷

STEP 1 事前準備

インターネットに接続されたパソコン、プリンターなどを用意してください。（スマートフォン、タブレットは非推奨）
必要書類※は、準備に時間を要する場合があります。早めに準備を始め、出願前には必ず手元にあるようにしておいてください。
※必要書類…調査書、顔写真データ、各選抜毎の提出書類など



STEP 2 Web出願サイトにアクセス

Web出願サイト ▶ **https://e-apply.jp/ds/nittai-net/**

または、

大学ホームページ ▶ **https://www.nittai.ac.jp/**

からアクセス



STEP 3 マイページの登録

画面の手順に従って、必要事項を入力してマイページ登録を行ってください。
なお、マイページの登録がお済みの方は、STEP4に進んでください。



①初めて登録する方は
マイページ登録 から
ログインしてください。



②メールアドレスの登録を行って
仮登録メールを送信 > を
クリックしてください。



③ユーザー登録画面から
ログインページへ を
クリックしてください。



④登録したメールアドレスに
初期パスワードと
本登録用URLが届きます。
※@e-apply.jpのドメインからのメールを受信できるように設定してください。



⑤ログイン画面から
登録したメールアドレスと④で届いた『初期パスワード』にて
ログイン を
クリックしてください。



⑥初期パスワードの変更を
行ってください。



⑦表示された個人情報を入力して
次へ を
クリックしてください。



⑧個人情報を確認して
この内容で登録する を
クリックしてください。



⑨登録完了となります。
マイページへ を
クリックしてください。



⑩上記ページが表示されたら
マイページ登録は完了です。

※出願受付中の場合のみ、出願手続きを行う ボタンをクリックすると出願手続に進めます。
登録期間外の場合は、これより先に進めませんので ログアウト ボタンをクリックしてください。

STEP 4

出願内容の登録

画面の手順や留意事項を必ず確認して、画面に従って必要事項を入力してください。



①マイページログイン後の
出願手続きを行う ボタン
から登録画面へ



②大学・大学院区分の選択



③選抜区分選択と留意事項の
確認



④志望学部等の選択



⑤顔写真のアップロード
写真選択へ ボタンをクリックし
写真を選択します。



⑥個人情報（氏名・住所等）の
入力



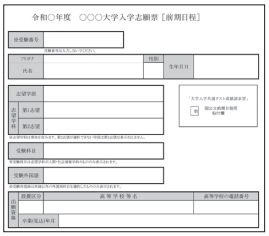
⑦出願内容の確認
志願票（サンプル） ボタンを
クリックすると志願票が確認できます。



⑧申込登録完了
引き続き支払う ボタンを
クリックし検定料のお支払い画面へ。



⑨入学検定料の支払い方法
●コンビニエンスストア
●ペイジー対応銀行ATM
●ネットバンキング ●クレジットカード



⑩出願に必要な書類PDF
（イメージ）
※検定料納入後に出力可能となります。

入学検定料の支払い方法で「コンビニエンスストア」または「ペイジー対応銀行ATM」を選択された方は、支払い方法の選択後に表示されるお支払いに必要な番号を下記メモ欄に控えたうえ、通知された「お支払い期限」内にコンビニエンスストアまたはペイジー対応銀行ATMにてお支払いください。

セブン-イレブンの場合

払込票番号メモ（13桁）													

デイリーヤマザキ、セイコーマートの場合

オンライン決済番号メモ（11桁）										

ローソン、ミニストップ、ファミリーマート、ペイジー対応銀行ATMの場合

お客様番号メモ（11桁）											
確認番号メモ（6桁）											
収納機関番号（5桁）	5	8	0	2	1						

※収納機関番号は、ペイジーでお支払いの際に必要となります。

申込登録完了後に確認メールが送信されます。メールを受信制限している場合は、送信元（@e-apply.jp）からのメール受信を許可してください。　※確認メールが迷惑フォルダなどに振り分けられる場合がありますので、注意してください。

入学検定料支払い前であれば正しい出願内容で再登録することで、実質的な修正が可能です。

※「入学検定料の支払い方法」でクレジットカードまたはネットバンキングを選択した場合は、出願登録と同時に支払いが完了しますので注意してください。

STEP 5

入学検定料の支払い

1 クレジットカードでの支払い

出願内容の登録時に選択し、支払いができます。

【ご利用可能なクレジットカード】
VISA、Master、JCB、AMERICAN EXPRESS、MUFGカード、DCカード、UFJカード、NICOSカード

Webで手続き完了

2 ネットバンキングでの支払い

出願内容の登録後、ご利用画面からそのまま各金融機関のページへ遷移しますので、画面の指示に従って操作し、お支払いください。

※決済する口座がネットバンキング契約されていることが必要です

Webで手続き完了

3 コンビニエンスストアでの支払い

出願内容の登録後に表示されるお支払いに必要な番号を控えて、コンビニエンスストアでお支払いください。

●レジで支払い可能

セブン-イレブン
デイリーヤマザキ
セイコーマート

●店頭端末を利用して支払い可能

Loppi
LAWSON
MINISTOP
マルチコピー機
FamilyMart

4 ペイジー対応銀行ATMでの支払い

出願内容の登録後に表示されるお支払いに必要な番号を控えて、ペイジー対応銀行ATMにて画面の指示に従って操作のうえお支払いください。

※利用可能な銀行は「支払い方法選択」画面で確認してください。

各コンビニ端末画面・ATMの画面表示に従って必要な情報を入力し、内容を確認してから入学検定料を支払ってください。

3 コンビニエンスストア

セブン-イレブン	デイリーヤマザキ ヤマザキデイリーストアー	ローソン ミニストップ	ファミリーマート	セイコーマート
店頭レジ	店頭レジ	Loppi	マルチコピー機	店頭レジ
レジで「インターネット代金支払い」と伝える	レジで「オンライン決済」と伝える	「各種番号をお持ちの方」を選択	「代金支払い/チャージ（コンビニでお支払い Payment/Charge）」を選択	レジで「インターネット代金支払い」と伝える
「払込票番号（13桁）」を伝える	「オンライン決済番号（11桁）」を伝える	「お客様番号（11桁）」入力	「お客様番号（11桁）」入力	「オンライン決済番号（11桁）」を伝える
		「マルチペイメントサービス」を選択		
		「確認番号（6桁）」入力	「確認番号（6桁）」入力	
		支払い内容確認	支払い内容確認	
レジで検定料を現金で支払う※		発券された申込券（受付票）をレジへ持参し、検定料を現金で支払う※ 申込券（受付票）発行後は30分以内にレジにて支払ってください。		レジで検定料を現金で支払う※
領収書（レシート形式）を必ず受け取る		取扱明細書兼領収書を必ず受け取る		

4 銀行ATM

Pay-easy 利用ATM
ペイジー対応銀行ATM
「税金・料金払い込み」などを選択
収納機関番号「58021」を入力
「お客様番号（11桁）」入力
「確認番号（6桁）」入力
支払い内容確認
「現金」「キャッシュカード」を選択し支払う※
ご利用明細書を必ず受け取る

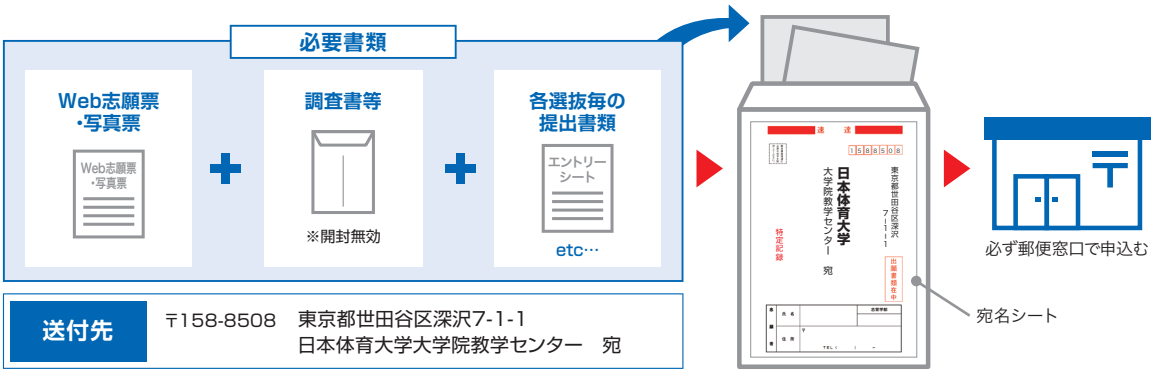
※ゆうちょ銀行・銀行ATMを利用する場合、現金で10万円を超える場合はキャッシュカードで支払ってください。コンビニエンスストアを利用の場合は現金で30万円までの支払いとなります。

STEP 6

必要書類の郵送

Web出願登録・入学検定料支払いを行っただけでは出願は完了していませんので注意してください。

登録完了画面または確認メールに記載されている必要書類を、出願期間内に郵便局窓口から「速達・特定記録郵便」で郵送してください。（出願期間内消印有効）



送付先　〒158-8508　東京都世田谷区深沢7-1-1
日本体育大学大学院教学センター　宛

■出願書類

出願書類に関しては以下の表を確認してください。

必要書類	必要部数	内　容
①Web志願票・写真票	各1	入学検定料支払後、出力可能となります。 A4サイズで印刷し、切り取り線に沿って切り取ってください。
②各選抜毎の提出書類	1	詳細は、各選抜の提出書類を確認してください。

※出願受理した必要書類は一切返却しません。

〈出願完了〉

出願時の注意点

出願はWeb出願サイトでの登録完了後、入学検定料を支払い、必要書類を郵送して完了となります。登録しただけでは出願は完了していませんので注意してください。

Web出願は24時間可能です。ただし、出願登録は出願締切日23時まで、入学検定料の支払いは出願締切日まで（営業時間はコンビニエンスストアやATMなど、施設によって異なります）、必要書類の郵送は出願期間内消印有効です。

STEP 7

受験票の印刷

本学で出願を確認後、各入試毎に**出願期間受付終了後から試験3日前までに**一斉に受験票を配信します。インターネット出願システムよりダウンロードできる状態にしますので、必ず印刷し、試験当日持参してください（**※郵送はいたしません**）。

※受験票のダウンロードが可能になりましたら、出願時に登録したアドレスへメールで通知します。

【印刷に関する注意事項】受験票は必ずA4用紙に**片面印刷**にしてください。



≪出願写真に関する注意事項≫

適切な写真例



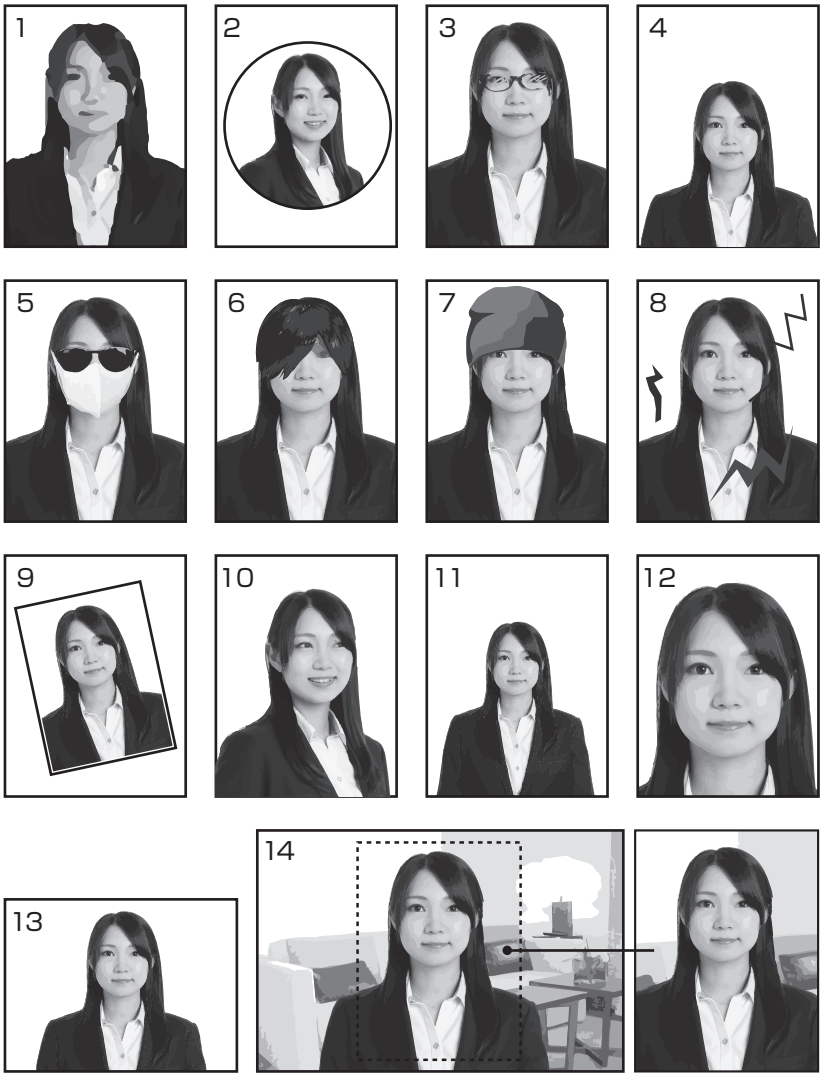
縦４cm

横 3cm

■写真の規定

- ●写真サイズは縦４cm× 横 3cm
- ●カラー写真、白黒写真いずれも可とします
- ●出願前３ヶ月以内に撮影したもの
- ●背景は無地（白・青・グレー）に限ります
- ●正面を向いた本人の顔がはっきり確認できるもの
- ●上半身で脱帽、頭部全体が写っている
- ●所定用紙（受験票・写真表・志願表）に貼付する写真は、全て同一の写真を貼付してください

下記項目に該当する場合は受付できませんのでご注意してください。



■ 受付できない写真例

1, 被写体が不鮮明（画像が荒い）

2, スナップ写真･SNS･ブログ等から流用した写真

3, 眼鏡のレンズに光が反射している

4, 頭上の余白部分が多い

5, サングラスやマスクをしている

6, 前髪や前髪の影で目を隠し、顔が確認できない

7, ヘアバンドや帽子で頭髪を覆っている

8, 変色していたり、キズや汚れがある

9, 証明写真を再撮影したもの

10, 被写体が正面を向いていない

11, 被写体が小さい

12, 被写体が大きすぎて写真からはみ出している

13, 写真サイズが横に長い

14, 背景に家具等が写っている

※該当する場合は必ず撮り直してください。